海事記念館
郷土館
太田屯田開拓記念館

活　動　報　告



厚岸町海事記念館



厚岸町郷土館



厚岸町太田屯田開拓記念館

令和６年度（2024 年度）

厚　岸　町　海　事　記　念　館

目　次

Ⅰ　施設の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 1
Ⅱ　資料の受け入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 8
Ⅲ　博物館の事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 13
Ⅳ　出版・広報活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 26
Ⅴ　博物館日誌(抄)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 27
Ⅵ　博物館の利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 37
Ⅶ　博物館の組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 40
Ⅷ　博物館活動のマスコミ報道・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p. 41
付編１　特別展「北門の鎖鑰（さやく）太田屯田兵村」解説冊子・・・・・・・・・p. 50
付編２　厚岸町考古学関連文献目録（～２０２５年）　・・・・・・・・・・・・・p. 61

Ⅰ.施設の概要

1.厚岸町海事記念館

所在地　〒088-1151　北海道厚岸郡厚岸町真栄3丁目4番地

電話　0153-52-4040

Fax　0153-52-4040

ホームページアドレス

メールアドレス　k-kaiji@akkeshi-town.jp

建設工事　着工/昭和62年、完成/昭和 63年3月

建物構造　鉄筋コンクリート造2階建

総工費　494,540千円

敷地面積　2,723㎡

建物面積　1,493㎡

展示室床面積　海事常設展示516㎡、科学常設展示203㎡、特別展示室78㎡
プラネタリウムドーム79㎡

開館時間　午前9時～午後5時

休館日　月曜日（月曜日が国民の休日の場合は翌日）・国民の休日の翌日・年末年始（12月29日～1月3日）

入館料　無料

交通　・JR花咲線厚岸駅下車　徒歩10分
・釧路空港から車で約70分

施設設備　エレベーター　1基
車椅子　2台

※プラネタリウム室概要

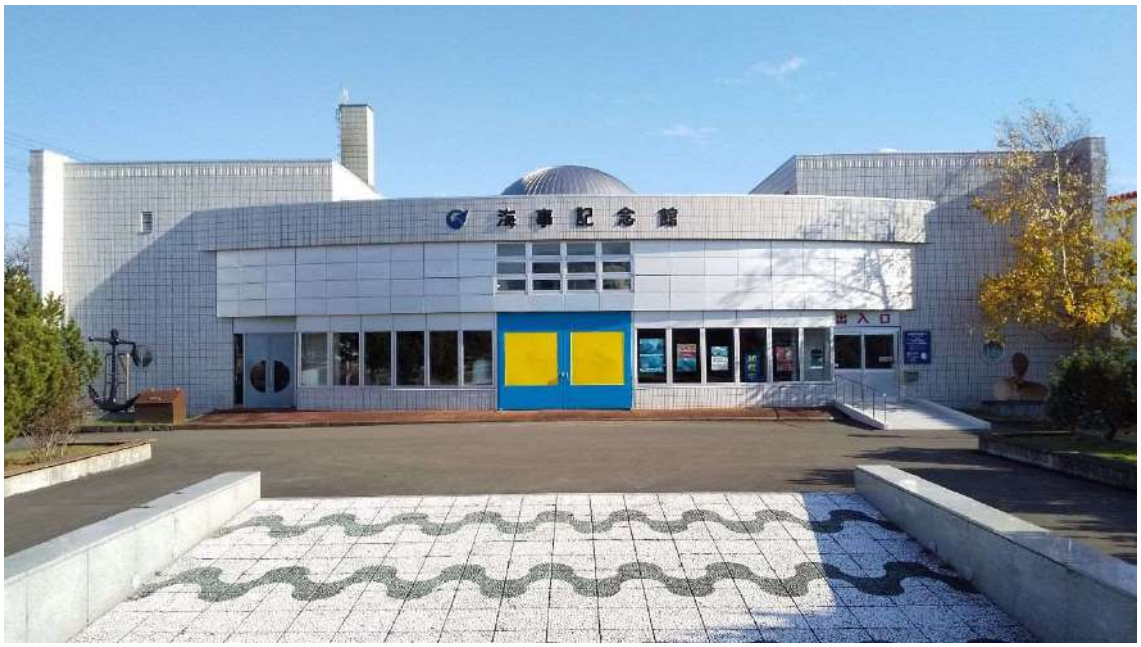
ドーム直径　10.0m

ドーム形状　水平

座席数　85席

座席配列　一方向

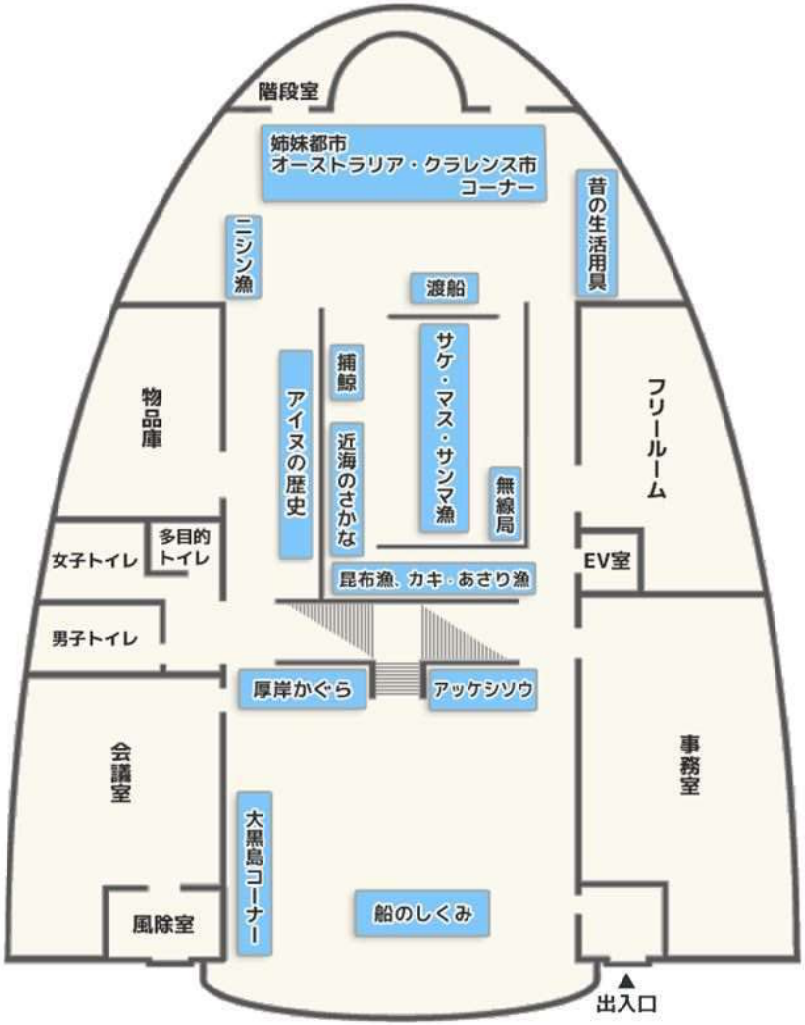
投影機　GX-T（(株)五藤光学研究所）



厚岸町海事記念館外観



プラネタリウム室内



海事記念館１階展示マップ



海事記念館２階展示マップ

2.厚岸町郷土館

所在地　〒　北海道厚岸郡厚岸町湾月1丁目2番地

電話　0153-52-3794

建設工事　着工/昭和41年、完成/昭和42年

建物構造　鉄筋ブロック造1階

総工費　5,380千円

建物面積　180㎡

開館時間　午前9時～午後4時

休館日　月曜日（月曜日が国民の休日の場合は翌日）・国民の休日の翌日・年末年始

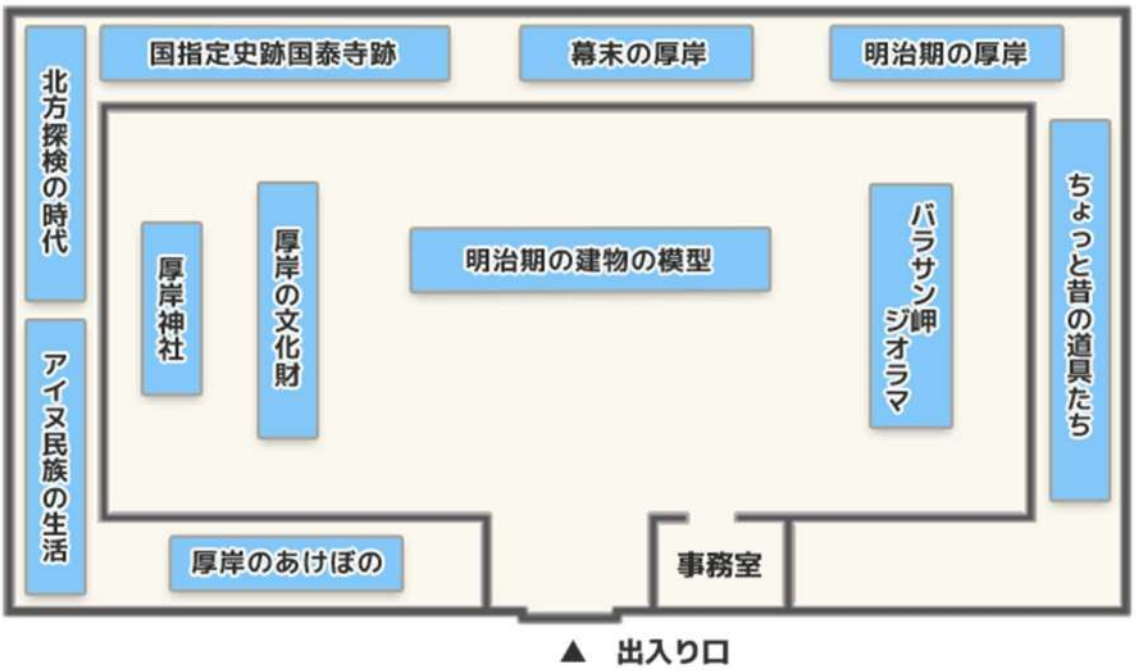
（冬期休館：11月16日～翌年4月15日）

入館料　無料

交通　JR 花咲線厚岸駅から車で10分



厚岸町郷土館外観



郷土館展示マップ

3.太田屯田開拓記念館

所在地　〒088-1151　北海道厚岸郡厚岸町太田5の通り23番地1

電話　0153-52-3599

建設工事　着工/平成2年4月、完成/平成3年3月

建物構造　鉄骨造及び一部木造

総工費　75,415千円

建物面積　307.70㎡

開館時間　午前9時～午後4時

休館日　月曜日（月曜日が国民の休日の場合は翌日）・国民の休日の翌日・年末年始

（冬期休館：11月16日～翌年4月15日）

入館料　無料

交通　JR 花咲線厚岸駅から車で15分



厚岸町太田屯田開拓記念館外観



太田屯田開拓記念館展示マップ

Ⅱ.資料の受け入れ

(1)寄贈資料(受入順)

①星匠氏

通票閉塞器

②丹羽武彦氏

書籍(厚岸のまつり)

③滝川敦善氏

剥製(アメマス)

④河内初男氏

黒電話

⑤髙橋眞治氏

そろばん(5つ玉)

(2)受贈図書資料(発行機関 50 音順)

厚沢部町教育委員会

令和5年度史跡館城跡発掘調査報告書

いしかり砂丘の風資料館

いしかり砂丘の風資料館 紀要 第14巻

一般財団法人地域創造

地域文化施設におけるアウトリーチ・ワークショップの成果や効果にもとづく今後の展開に関する調査研究報告書 アウトリーチから考える文化芸術の役割

一般財団法人北海道文化財保護協会

文化情報 第 398 号

北海道の文化 Vol.96

今金町教育委員会

町内遺跡詳細分布調査報告書

浦幌町立博物館

浦幌町立博物館紀要第 24 集

恵庭市教育委員会

恵庭市内遺跡発掘調査報告書

柏木川9遺跡Ⅱ

江別市教育委員会

高砂遺跡(26)、元江別9遺跡(2)、江別市内遺跡分布調査

町村農場遺跡4

えりも町郷土資料館・水産の館

えりも町郷土資料館調査研究報告書 えりも研究第 21 号

えりも町郷土資料館ほろいずみ えりも町漁業振興センター水産の館 令和5年度(2023 年)活動報告書

小樽市総合博物館

小樽市総合博物館紀要 第38号

帯広大谷短期大学

帯広大谷短期大学地域連携推進センター紀要第 10 号

帯広大谷短期大学紀要第 61 号

帯広百年記念館

帯広百年記念館 第 42 号

かほく市史編さん室

図説 かほく市の歴史と文化

神田日勝記念美術館

神田日彰記念美術館だより No.41

神田日勝記念美術館友の会

画室 Vol.64

釧路公立大学

釧路公立大学紀要 人文・自然科学研究 第37号

釧路公立大学紀要 社会科学研究 第37号

釧路公立大学地域研究 第33号

釧路市動物園

阿寒国際ツルセンター紀要 第 19 号

釧路市立博物館

春採湖の野帳ポケットガイド

ラムサール条約釧路会議 30 周年記念企画展 まもる、つかう、のこす 釧路湿原を未来へ～釧路湿原データブック

公益財団法人アイヌ民族文化財団

アイヌ関連総合研究等女性事業研究報告第24号

アットゥシと太布－糸がつなぐ文化

AINU ART モレウのうた

公益財団法人札幌市生涯学習振興財団

札幌市青少年科学館事業概要(令和6年度)

公益財団法人日本文化財保護協会

飛天

紀要 第8号

公益財団法人北海道環境財団

2023 年度活動報告書(令和5年度版)

公益財団法人北海道埋蔵文化財センター

新ひだか町 神森3遺跡

調査年報

仁木町 モンガクC遺跡

北海道立埋蔵文化財センター重要遺跡確認調査報告書第19集

幕別町 途別7遺跡

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団

地域の伝統文化 第32号

國學院大學博物館学研究室

Musette 第3号

國學院大學博物館學紀要 第48号

國學院大學博物館學紀要 第3号

国立アイヌ民族博物館

令和6年度プンカラ協働展示 三重から北海道へ-アイヌ文化と出会った人々-

ANUANU 16号・17号・18号

国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター

活断層・古地震研究報告(2023 年) 第23号

国立歴史民俗博物館

2023 年度企画展示 歴博色尽くし

国立歴史民俗博物館要覧(2024 年度)

札幌国際大学縄文世界遺産研究室

縄文 年報8

札幌市教育委員会

丘珠縄文遺跡-2022 年度活動報告-

N434 遺跡 第2次調査

令和5年度調査報告書

沙流川歴史館

沙流川歴史館年報 第25号

斜里町立知床博物館

斜里兵屋の魅力～人と自然による景観形成の歴史～

知床博物館研究報告 第45・46集

小・中学生向け副読本編集委員会

アイヌ民族:歴史と現在-未来を共に生きるために-〈改定版〉【小学生用】

アイヌ民族:歴史と現在-未来を共に生きるために-〈改定版〉【中学生用】

アイヌ民族:歴史と現在-未来を共に生きるために-〈改定版〉【教師用指導書】

全国史跡整備市町村協議会

全史協会報 2024

仙台藩白老元陣屋資料館

黒毛和牛の事始め

仙台藩白老元陣屋資料館報 第 20 号

第59回全国史跡整備市町村協議会大会実行委員会事務局

第59回全国史跡整備市町村協議会大会大会議事録

卓彦伶

ミュージアムを足している-北海道大学プラス・ミュージアム・プログラム Report3

Insight on Site 地域社会とともにあるミュージアムの現場に学ぶ

田村英雄

タンチョウ 湿原のカムイ

千歳市教育委員会

史跡キウス周堤墓群(第8次調査)

市内遺跡調査報告書

パンケビビ遺跡

メボシ川2遺跡

天理大学附属天理参考館

天理参考館報 第37号

東京農業大学オホーツクキャンパス

学術情報課程年報 2023 博物館と学芸員を目指す

苫小牧市美術博物館

苫小牧市美術博物館紀要 第9号

苫小牧市美術博物館年報 第11号

戸田恭司

毛綱建築の釧路市立博物館

中標津町教育委員会

中標津町文化財保存活用地域計画

中標津の自然を知ろう会

蝦夷竜胆

奈良文化財研究所

全国遺跡報告総覧登録マニュアル　2024年9月号

デジタル技術による文化財情報の記録と利活用　報告タイトル総目録　2024

発掘調査報告書総目録　北海道編

根室市教育委員会

くるまいし　No.39

西月ヶ岡竪穴群

根室市歴史と自然の資料館紀要　第 36 号

ひがし大雪自然館

上士幌町生物多様性データブック 2023（植物・菌類・脊椎動物）

ひがし大雪自然館研究報告　第 11 号

美幌博物館

2023 年度博物館講座

美幌博物館研究　第 31 号

美幌博物館報

美幌町埋蔵文化財調査報告書

蛍が舞う風景

GLEEN LETTER Vol.311～321

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

2022 年度　平取町立二風谷アイヌ文化博物館年報

シシリムカ文化財だより　第22号・第23号・第24号・第25号

府中市郷土の森博物館

あるむぜお　第148号・第149号・150号

富良野市博物館

富良野市博物館報告　第5号

北網圏北見文化センター

北見博物館研究報告　第6号

北海道キノコの会

北海道キノコの会会報 Vol.64

北海道庁

アイヌの魅力に出会う旅　多様な文化と歴史を学ぶ

北海道屯田倶楽部

屯田　第75号・76号

北海道博物館

北海道博物館研究紀要第9号

北海道博物館資料目録

北海道博物館第 10 回特別展 みんなの鉄道 -がんばれ！地域の公共交通-

北海道博物館アイヌ民族文化研究センター

北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究紀要第9号

北海道博物館協会

道博協ニュース　第134号・135号

北海道立北方民族博物館

アークティック・ステッチ北方民族の刺繍

北海道立北方民族博物館研究紀要第 33 号

北海道立北方民族博物館資料目録 19　絵はがき2

北方民族博物館だより　133 号

令和5年度年報

北海道立埋蔵文化財センター

北海道立埋蔵文化財センター年報　第 25 号

北方植物資料研究会

『東蝦夷物産志』を読む

前沢卓

アイヌ民族伝承儀式 カムイノミ イチャルパ（シンヌラッパ）祈りの記憶

宮脇保博

抜萃のつづり 84号

むかわ町教育委員会

自然科学分析調査報告書（天保の石灯籠）

森町教育委員会

鷲ノ木遺跡Ⅹ

余市町教育委員会

国指定史跡旧余市福原漁場−防災施設整備事業報告書−

余市水産博物館活動協力会

余市水産博物館研究報告　第18号

Ⅲ.博物館の事業

1.海事記念館特別展等事業

・パネル巡回展「62 の「月」が織りなす多彩な世界？」 展示期間：4月29日～5月19日

2017 年9月に運用を終えた土星探査機（カッシーニ）が捉えた数々の個性的な月の姿をまとめたパネルを展示した（全国科学館連携協議会パネル巡回展示物等貸与支援事業）。





・天文写真展「10 枚の『天』」 展示期間：8月21日～9月11日

天文写真家吉田隆行氏による天体専用デジタルカメラ等を使用した作品の展示会を行った。




・海の作品展　展示期間：9月14日～10月16日、表彰式：10月10日

夏休み期間中に町内の小学生が作成した海に関する作品を展示した。また、最優秀賞1点、教育長賞1点、優秀賞3点については表彰を10月10日に行った。





・小中学生「宇宙の日」記念作文絵画コンテスト　展示期間：10月18日～11月10日
表 彰 式：12月19日

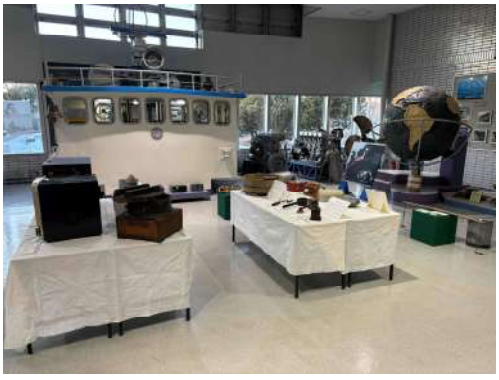
青少年を中心とする一般の方々に広く宇宙及び宇宙開発について、興味・関心と理解を深める目的として実施した（絵画の部（小学生30点）、作文の部（今年度該当無し）（「宇宙の日」事務局宇宙航空研究開発機構（JAXA）連携事業）。



・学校授業支援企画展「なつかしの道具たち」　展示期間：1月18日～2月16日

昔使われていた道具（収蔵資料）を展示し、町内の小学校の学習プランに合わせて展示解説を行った。





・オリジナル星座をつくろう！　上映日：2月28日　放映期間：3月1日～23日

所定の用紙（星図）に描かれている星を結んでオリジナル星座を描いてもらう方法で作品を募集。集まった作品で動画を作成し、プラネタリウム室で上映した。上映後はプラネタリウム室前にデジタルサイネージを設置し動画を放映した。





・特別展「北門の鎖鑰（さやく） 太田屯田兵村」 展示期間：3月1日～4月6日

屯田兵について説明するパネルと当館収蔵資料を中心に、太田村の屯田兵についての特別展を開催した。





2.文化財関連事業・講演会等事業

・植物観察会　実施日：8月18日　参加者：13名

釧路市立博物館の加藤学芸員を講師にむかえ、太田農村公園内に自生している植物を観察し、町内の自然についての理解を深めた。





・第 49 回ふるさと教室　実施日：8月24日　参加者：13名

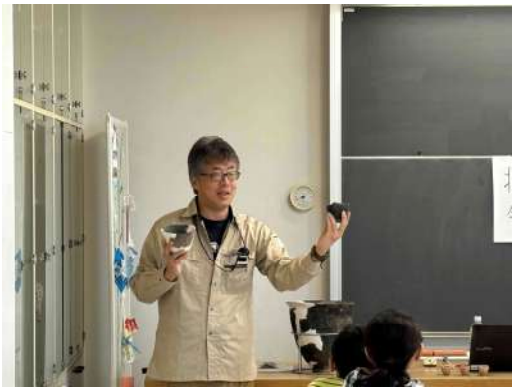
文化財に対する知識や認識を深めるため、町内及び近隣の施設を巡る事業で例年実施しており、令和6年度は弟子屈町の「ふるさと歴史館」、「屈斜路コタンアイヌ民族資料館」、「川湯ビジターセンター」を見学した。





・考古学教室出前講座　ミニチュア土器づくり　実施日：10月12日　参加者：22名

北海道立埋蔵文化財センター職員を講師に招き、厚岸の遺跡について学習した後、ミニチュア土器を製作した。





・文化財歴史講演会　実施日：10月26日　参加者：18名

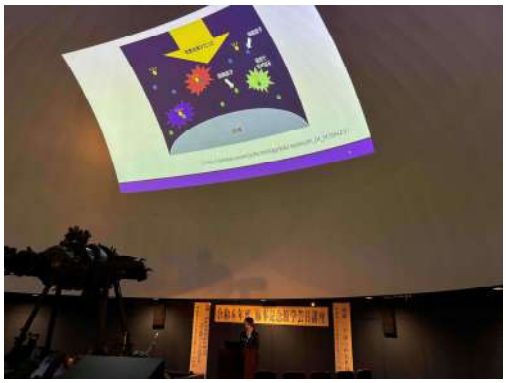
厚岸町の歴史的重要性について例年行っている事業で、令和6年度は国立アイヌ民族博物館の鈴木建治氏に「蝦夷地が「アトキス」島と呼ばれていた時代−18世紀後半のロシア人からみた日露関係史−」という題で講演をいただいた。





・海事記念館学芸員講座　実施日：3月20日　参加者：38名

海事記念館学芸員が日頃行っている研究・調査結果を発表。今年度は川守学芸員が「宇宙への入り口」、小田島学芸員が「遙かなる屯田の呼び声−北門の鎖鑰としての太田屯田兵村−」という題で講演を行った。





・お出かけ先生

住民の要望により海事記念館学芸員が出向き歴史等の学習会を実施。

①厚岸小学校4年生を対象に、アッケシソウについての授業を実施（実施日：4月17日、9月6日）。

②厚岸小学校6年生を対象に、牡蠣島弁天神社についての授業を実施（実施日：7月14日）。

③厚岸小学校6年生を対象に、国泰寺の歴史についての授業を実施（実施日：8月21日）。

④厚岸町新規採用職員を対象に、厚岸町の歴史についての研修を実施（実施日：10月9日）。

⑤海事記念館にて太田屯田兵の歴史についての講演を実施（中小企業同友会主催）。

（実施日：1月17日）

・町指定文化財「厚岸かぐら」への支援

〇「厚岸かぐら同好会・少年団」への支援

①厚岸町文化協会創立50周年記念祝賀会にて、厚岸かぐら同好会が演目を披露する場においての協力を行った（実施日：5月11日）。

②2024年山小屋らんぷの家野外交流パーティーにて、厚岸かぐら同好会及び厚岸かぐら少年団が演目を披露する場においての協力を行った（実施日：7月21日）。

③第77回くしろ港まつり『第18回郷土芸能フェスティバル』にて、厚岸かぐら同好会及び厚岸かぐら少年団が演目を披露する場においての協力を行った（実施日：8月3日）。

④厚岸町民文化祭にて、厚岸かぐら同好会及び厚岸かぐら少年団が演目を披露する場においての協力を行った（実施日：11月17日）。

⑤第66回北海道文化集会 in 釧路にて、厚岸かぐら同好会が演目を披露する場においての協力を行った（実施日：12月8日）。

⑥厚岸町二十歳のつどいにて厚岸かぐら同好会が演目を披露する場においての協力を行った。

（実施日：1月5日）。

⑦厚岸小学校4年生及び伝承校となっている真龍小学校3年生に対して、厚岸かぐらの歴史や演目についての指導を、厚岸かぐら同好会の方々の協力のもと行った。

（実施日：11月26日、7月19日、8月20・23・28・29・30日、9月2日）

⑧厚岸かぐら少年団における演目練習の支援を行った。

（実施日：4月14日、5月26日、6月23日、8月25日、9月22日、10月20日、2月15日）





・床潭沼ヒブナ生息調査

北海道指定天然記念物「厚岸床潭沼の緋鮒生息地」について、ヒブナの生息を把握するため調査を実施（実施回数：2回、7月4～5日、8月30～31日）。





・埋蔵文化財発掘調査

国立アイヌ民族博物館と共同で筑紫恋第一チャシ跡・筑紫恋第二チャシ跡の発掘調査を実施した。（実施日：7月1～3日（筑紫恋第一チャシ跡）、10月28～31日（筑紫恋第二チャシ跡））





筑紫恋第一チャシ跡





筑紫恋第二チャシ跡

・アッケシソウの保護・栽培について

「厚岸」の名を冠した植物であるアッケシソウについて、保護・育成の目的から人工栽培を行っている。令和6年度は郷土館前庭、チカラコタン地区で人工栽培を実施した。



郷土館前庭での人工栽培のようす



チカラコタン地区での人工栽培のようす

3.科学館事業

3-1.プラネタリウム投映時間（括弧内は投映曜日）

平日

14:30～　全天周番組「ネイチャーリウム　星の旅-世界編-」（火・木）
全天周番組「ねずみと森のなかまたち～お月さまを食べたのだぁれ？～」（水・金）

15:30～　海事記念館オリジナル番組（通常）（水・金）　※季節ごとに作成
海事記念館オリジナル番組（通常＋アイヌ民族星ものがたり）（火・木）　※季節ごとに作成

休日・祝日

11:00～　海事記念館オリジナル番組（低学年・幼児向け）　※季節ごとに作成

13:30～　全天周番組「カムイからの教え～漁を伝える曳き網の星」　※海事記念館オリジナル番組

14:30～　全天周番組「ネイチャーリウム　星の旅-世界編-」（土）
全天周番組「ねずみと森のなかまたち～お月さまを食べたのだぁれ？～」（日・祝）

15:30～　海事記念館オリジナル番組（通常）（日・祝）※季節ごとに作成

海事記念館オリジナル番組（通常＋アイヌの星ものがたり）（土） ※季節ごとに作成

3-2.通常投映番組

海事記念館のプラネタリウムでは季節ごとに番組を作成し、投映している（ナレーションはボランティア）。また、令和2年度からは全天周投映システムを導入し、通年で投映する番組を投映している。

・春番組

期　間：令和6年3月1日～5月31日

番組名：「王女のかんむり」

（ナレーション：運上亜沙美氏）

「いのちの女神　おとめ座（低学年向け）」

（ナレーション：読み聞かせサークル「ちいさな絵本箱」）

・夏番組

期　間：令和6年6月1日～8月31日

番組名：「夏の夜の物語/輝く星の正体」

（ナレーション：運上亜沙美氏）

「夏の夜、空の大きさ△」（低学年向け番組）」

（ナレーション：読み聞かせサークル「小さな絵本箱」）

・秋番組

期　間：令和6年9月1日～11月30日

番組名：「秋の夜をかけるペガスス」

（ナレーション：運上亜沙美）

「秋の星座のおはなし（低学年向け番組）」

（ナレーション：読み聞かせサークル「小さな絵本箱」）

・冬番組

期　間：令和6年12月 1 日～令和7年2月28日

番組名：「空のダイヤを探す旅」

（ナレーション：運上亜沙美氏）

「お星さまが消える？（低学年向け番組）」

（ナレーション：髙橋まゆみ氏（読み聞かせサークル「小さな絵本箱」所属）

・春番組

期　間：令和7年3月1日～5月31日

番組名：「ヘルクレスとしし/消える土星の環」

（ナレーション：運上亜沙美氏）

「春が来た！（低学年向け番組）

（ナレーション：水内亜由美氏）

3-3.学習投映

通常投映番組のほかに、小中学校の学習要領に合わせたプラネタリウム投映も随時実施している。

・7月17日（厚岸小学校4年生）

・8月28日（太田小学校4年生）

・11月26日（中茶安別中学校2年生）

・12月18日（厚岸小学校4年生）

3-4.夜間投映

プラネタリウム番組を広く認知してもらうため、1ヶ月に1・2回程度、平日の夜間に番組を投映している。

・4月19日： 5名

・5月17日：10名

・6月28日：13名

・ 7月19日： 4名

・ 8月 2日： 1名

・ 9月20日：13名

・10月11日：12名

・11月15日：29名

・12月13日：18名

・ 1月18日： 6名

・ 2月21日： 7名

・ 3月14日： 4名

3-5.その他の科学館事業

・オーロラ映像上映会

実施日：6月14日・15日 参加者：112名

オーロラメッセンジャー中垣氏を講師に招き、世界各地で撮影したオーロラを含む大自然の映像をプラネタリウム室で中学生の学習と町民向けに投映。

・熟睡プラ寝たリウム

実施日：11月23日 参加者：22名

勤労感謝の日に、プラネタリウムの星空を鑑賞しながら日頃の疲れを癒やす目的で日本プラ寝たリウム学会との共催で全国一斉に実施した。

・ほしぞら教室

（実施日：10月24日 参加者：47名）

太田小学校グラウンドで釧路市こども遊学館の移動天文車「カシオペア号」と職員による天文解説を交え、星雲や恒星を観察した。





・天体観望会

町民広場において皆既月食の観測及び天体・天体現象の解説を当館学芸員により行った。

（実施日：11月29日、参加者：9名）





・海事記念館探検クイズ

館内において展示物や海に関するクイズをテーマ毎に出題

（春）	4月3日 ～	6月30日 「宝石について知ろう！」	13名
（夏）	7月3日 ～	9月29日「2024 年夏の星、今年の流星群について知ろう！」	52名
（秋）	10月2日 ～	12月28日「カキについて知ろう！」	28名
（冬）	1月7日 ～	3月30日 「数学について知ろう！」	15名

・海事記念館こどもクラブ

海事及び科学教育を通して交流を図るとともに、地域に根ざした活動の中で、自分にできることに自ら取り組むことのできる心や、仲間と協力することの大切さを学ぶ目的から通年で実施している。小学生4年生～6年生を対象。

第1回 5月25日 オリエンテーション 参加者：9名

職員・会員の顔合わせも含めアイスブレイクを実施した。





第2回 6月1日 海洋環境教育活動 参加者：10名

北海道大学臨海実験所に協力いただき、ビーチクリーン活動等を実施し、ブルーカーボン生態系について学習した。





第3回 6月15日 オーロラ上映会 参加者：8名

オーロラメッセンジャー中垣氏を講師に招き、世界各地で撮影したオーロラを含む大自然の映像を鑑賞した。

第4回 7月28日 カヌー体験と水辺の生物観察 参加者：6名

カヌーの体験と、別寒辺牛川の川底を網ですくい、川に生息する生き物の観察を行った。





第5回　8月17日　アッケシソウを知ろう！　参加者：3名

海事記念館職員が講師として、アッケシソウの解説を行った後、郷土館前の栽培地でアッケシソウを観察した。




第6回　9月14日　歴史探訪　参加者：5名

今年度は、太田屯田開拓記念館・太田屯田兵屋・収蔵庫内を見学したほか、太田地区の歴史について海事記念館学芸員が解説を行った。




第7回　10月12日　ミニチュア土器づくり　参加者7名

北海道立埋蔵文化財センター「考古学教室出前講座 ミニチュア土器づくり」に参加し、学習を行った。

第8回　11月9日　プラネタリウム操作体験　参加者：6名

海事記念館学芸員の説明を受けながら、プラネタリウム投影機の操作体験を行った。




第9回　12月21日　パナソニック出前講座『ランタンづくり』 参加者：9名

パナソニック株式会社の職員を講師に招き、直接エネルギーの”創・畜・省”について学び、ランタンを作成した。





第10回　 1月25日　アイスキャンドルづくり　参加者：8名

海事記念館の指導を受けながら、アイスキャンドルを制作した。





第11回　2月17日　厚岸かぐら体験　参加者：2名

町指定無形文化財の「厚岸かぐら」を厚岸かぐら同好会員の指導を受け、演目を体験した。





第12回 3月23日　修了式 参加者：8名

年度当初に行ったアンケートをもとに、各自で設定した目標の達成度を評価し、1年間の修了証を会員に授与した。

Ⅳ.出版・広報活動

〇海事記念館通信（年4回発行）

各種事業や施設のお知らせについて、広報あっけしに掲載

〇ホームページ及び SNS の発信

各種事業や天文情報、施設のお知らせについて、海事記念館ホームページや SNS(Facebook・X)で発信

〇活動報告の発刊

海事記念館・郷土館・太田屯田開拓記念館の年次活動報告を年1回発刊（本書）

Ⅴ.博物館日誌(抄)

海事記念館

4月　2日(火)プラネタリウム投影(放課後デイサービスといろ)(川守学芸員)
4月　3日(水)館内見学(NPO法人ソレゾレ)
4月　9日(火)防災設備点検
　　施設見学対応(厚岸町役場職員新入職員)(菅原館長・小田島学芸員・川守学芸員)
4月11日(木)郷土館・太田屯田開拓記念館管理人説明会(菅原館長・小田島学芸員)
4月14日(日)厚岸かぐら少年団練習支援(小田島学芸員)
4月16日(火)厚岸小学校4年生授業(アッケシソウの学習)(菅原館長・佐野主任・小田島学芸員)
　　アッケシソウ播種(チカラコタン地区＆郷土館前)
4月18日(木)FMくしろ番組収録(釧路市)(小田島学芸員)
4月19日(金)プラネタリウム夜間投影(佐野主任・川守学芸員・土肥主事)
4月27日(土)全国科学連絡協議会パネル展開催(～5/19)
5月　9日(木)施設見学(翔洋高校)
5月11日(土)厚岸かぐら支援(菅原館長・小田島学芸員)
5月15日(水)糸魚沢林道試掘調査(菅原館長・佐野主任・小田島学芸員)
5月17日(金)プラネタリウム夜間投影(佐野主任・川守学芸員・土肥主事)
5月18日(土)シンポジウム『アイヌの舟と交易』講演用務(苫小牧市民会館)(小田島学芸員)
　　プラネタリウム夏番組ナレーション録音(運上氏)(川守学芸員)
5月22日(水)プラネタリウム投影(西春別中学校)(髙橋事務補助員)
5月23日(木)教育委員会管理職会議出席(菅原館長)
5月24日(金)牡蠣島弁天神社奉賛事業(こどもあさり掘り)講師用務(小田島学芸員)
　　令和6年度第1回厚岸町社会教育委員会議出席(菅原館長)
5月25日(土)こどもクラブ第1回(菅原館長・佐野主任・髙橋事務補助員)
5月26日(日)厚岸かぐら少年団練習支援(小田島学芸員)
5月28日(火)定例教育委員会出席(菅原館長)
　　プラネタリウム投影(カトリック幼稚園)(髙橋事務補助員)
　　FMくしろ番組収録(釧路市)(小田島学芸員)
　　アッケシソウ栽培にかかる打合せ(厚岸小学校)(小田島学芸員)
5月29日(水)道東3館内連絡協議会総会出席(釧路市立博物館)(小田島学芸員)
5月30日(木)北海道科学館協議会会議出席(札幌市)(菅原館長)
　　伊福部昭に関する調査同行(北海道新聞)(三浦主任専門員・小田島学芸員)
5月31日(金)北海道科学館協議会会議出席(札幌市)(菅原館長)
　　九州大学田尻教授来館(小田島学芸員)
　　プラネタリウム投影(友遊児童館)(髙橋事務補助員)
　　こどもクラブに関する打合せ(タラオセアンジャパン・北海道大学仲岡教授)(佐野主任)

6月　1日（土）こどもクラブ第2回（菅原館長・佐野主任）
6月　5日（水）管理職会議出席（菅原館長）
6月11日（火）尾幌・糸魚沢道路試掘調査（小田島学芸員）
6月12日（水）尾幌・糸魚沢道路試掘調査（小田島学芸員）
6月13日（木）尾幌・糸魚沢道路試掘調査（小田島学芸員）
館内解説・プラネタリウム投映（鶴居小学校）（菅原館長・川守学芸員）
6月14日（金）オーロラ映像上映会
6月15日（土）オーロラ映像上映会
6月16日（日）アッケシソウ学習会（菅原館長・小田島学芸員）
6月18日（火）新厚岸町史第3巻編集に係る聞き取り調査（菅原館長・三浦主任専門員・小田島学芸員・髙橋事務補助員）
6月19日（水）厚岸翔洋高校企業実習（1日目）
ふるさと友の会総会
教育委員会管理職会議出席（菅原館長）
アッケシソウ現地視察同校（厚岸翔洋高校）（小田島学芸員）
6月20日（木）厚岸翔洋高校企業実習（2日目）
厚岸かぐらの授業に係る打合せ（真龍小学校）（菅原館長・小田島学芸員）
6月21日（金）厚岸翔洋高校企業実習（3日目）
プラネタリウム投影（しんりゅう保育所）
6月22日（土）館内見学（みなみなプレイス）
6月23日（日）厚岸かぐら少年団練習支援（小田島学芸員）
6月25日（火）床潭沼ヒブナ調査（佐野主任・小田島学芸員）
6月26日（水）床潭沼ヒブナ調査（佐野主任・小田島学芸員）
館内解説・プラネタリウム投影（中春別小学校）（菅原館長・川守学芸員）
館内解説・プラネタリウム投影（生きがい大学）（小田島学芸員・川守学芸員）
6月27日（木）ヒオウギアヤメに係る協議会出席（菅原館長）
6月28日（金）館内見学（カトリック幼稚園）
館内解説（北前船フォーラム関係団体）（菅原館長）
プラネタリウム夜間投影（佐野主任・川守学芸員・土肥主事）
7月　1日（月）筑紫恋第一チャシ跡発掘調査（小田島学芸員）
7月　2日（火）筑紫恋第一チャシ跡発掘調査（小田島学芸員）
7月　3日（水）筑紫恋第一チャシ跡発掘調査（小田島学芸員）
7月　4日（木）プラネタリウム投影（川湯中学校）（川守学芸員）
釧路新聞社星社長来館
7月　5日（金）プラネタリウム投影（カトリック幼稚園）（川守学芸員）
館内見学（真龍中学校）

7月　6日（土）一本嶋氏来館（菅原館長）
7月　9日（火）業務量調査実施に伴う担当者向け説明会出席（菅原館長）
星空観察（標茶町沼幌小学校（菅原館長・川守学芸員・髙橋事務補助員）
7月10日（水）文書作成能力向上研修参加（佐野主任・川守学芸員）
館内解説・プラネタリウム投影（菅原館長・髙橋事務補助員）
7月11日（木）北海道博物館大会出席用務（函館市）（小田島学芸員）
7月15日（月）厚岸かぐら少年団練習支援（小田島学芸員）
7月17日（水）館内解説・プラネタリウム投影（釧路市愛国小学校）（菅原館長・川守学芸員）
厚岸小学校・岡山県浅口市寄島小学校オンライン交流立会い（小田島学芸員）
史跡国泰寺跡現地視察対応（菅原館長・小田島学芸員）
プラネタリウム学習投影（厚岸小学校）（川守学芸員）
7月18日（木）令和6年度第1回史跡国泰寺跡保存活用計画策定委員会（菅原館長・小田島学芸員）
7月19日（金）厚岸かぐら支援（真龍小学校）（小田島学芸員）
仙台藩白老元陣屋資料館　武永館長来館（小田島学芸員）
プラネタリウム夜間投影（菅原館長・川守学芸員・土肥主事）
7月20日（土）プラネタリウム投影（子夢希児童館）（川守学芸員）
7月21日（日）厚岸かぐら少年団練習支援（小田島学芸員）
プラネタリウム投影（清里陸上少年団）（髙橋事務補助員）
7月23日（火）教育委員会管理職会議出席（菅原館長）
7月25日（木）転入教職員町内視察研修同行（小田島学芸員）
令和6年度厚岸町避難訓練に伴う説明会出席（川守学芸員）
7月26日（金）太田農村公園希少生物生息調査（小田島学芸員）
定例教育委員会出席（菅原館長）
埋蔵文化財に係る打合せ（釧路総合振興局森林室）（小田島学芸員）
7月28日（日）『蝦夷地の陣屋シンポジウム』講演用務（白老町）（小田島学芸員）
こどもクラブ第3回（菅原館長・佐野主任・三浦主任専門員・髙橋事務補助員）
7月30日（火）ネイパル厚岸運営協議会出席（菅原館長）
7月31日（水）プラネタリウム幼児向け番組録音（清野氏）（川守学芸員）
8月　1日（木）太田農村講演現地視察同行（釧路市立博物館加藤学芸員）（菅原館長・小田島学芸員）
8月　2日（金）プラネタリウム夜間投影（菅原館長・佐野主任・川守学芸員・土肥主事）
8月　3日（土）厚岸かぐら支援用務（釧路市郷土芸能フェスティバル出演）（小田島学芸員）
8月　4日（日）厚岸町避難訓練（小田島学芸員・川守学芸員）
8月　6日（火）町史聞き取り調査打合せ（室﨑氏）（三浦主任専門員）
8月　7日（水）町内博物館施設解説（太田中学校山口校長）（小田島学芸員）
保存処理遺物運送業務打合せ（日本通運株式会社）（小田島学芸員）

8月　9日（金）初級職員研修受講（川守学芸員）
8月15日（木）プラネタリウム秋番組録音（運上氏）（川守学芸員）
FMくしろ番組収録（佐野主任）
8月17日（土）こどもクラブ第5回（菅原館長・佐野主任）
8月18日（日）植物観察会（菅原館長・小田島学芸員）
8月20日（火）ふるさと教室打合せ（さくらハイヤー）（菅原館長・佐野主任・小田島学芸員）
厚岸かぐら支援用務（真龍小学校）（佐野主任・小田島学芸員）
教育委員会管理職会議出席（菅原館長）
8月21日（水）「天体写真展」開催（～9/11）
業務改善手法研修受講（川守学芸員・土肥主事）
プラネタリウム投影（放課後クラブみなみな・のんびり学家まなぴあ）（髙橋事務補助員）
お出かけ先生（牡蠣島弁天神社・国泰寺について）（厚岸小学校）（小田島学芸員）
8月22日（木）施設見学（真龍小学校）
合同安全衛生委員会出席（小田島学芸員）
8月23日（金）厚岸かぐら授業支援（菅原館長・佐野主任・小田島学芸員）
8月24日（土）第49回ふるさと教室（弟子屈町）（佐野主任・小田島学芸員）
8月25日（日）厚岸かぐら少年団練習支援（菅原館長）
8月27日（火）定例教育委員会出席（菅原館長）
仙台藩白老元陣屋資料館武永館長来館
8月28日（水）史跡国泰寺跡保存活用計画に係る打合せ（オンライン）（菅原館長・小田島学芸員）
プラネタリウム学習投影（太田小学校）（川守学芸員）
厚岸かぐら授業支援（佐野主任・小田島学芸員）
8月29日（木）プラネタリウム学習投影（真龍小学校）（川守学芸員・髙橋事務補助員）
厚岸かぐら授業支援（菅原館長・小田島学芸員）
町内文化財パトロール（小田島学芸員）
8月30日（金）館内解説・プラネタリウム投影（釧路市立美原小学校）（小田島学芸員・川守学芸員・
髙橋事務補助員）
厚岸かぐら授業支援（菅原館長・佐野主任・小田島学芸員）
9月　1日（日）町内文化財パトロール（小田島学芸員）
9月　3日（火）大黒島戦争関連遺跡踏査調査（小田島学芸員）
プラネタリウム投影（標茶小学校）（川守学芸員）
管理職会議出席（館長）
9月　4日（水）北海道古代集落遺跡群臨時代表者会議出席（オンライン）（小田島学芸員）
9月　5日（木）アッケシソウ栽培地モニタリング調査視察（菅原館長）
プラネタリウム投影（商工会女性部）（川守学芸員）
9月　6日（金）アッケシソウ授業講師用務（厚岸小学校）（菅原館長・小田島学芸員）

9月　7日（土）町内施設解説（釧路学教養講座）（小田島学芸員）
天体観望会（菅原館長・佐野主任・川守学芸員・髙橋事務補助員）
9月10日（火）館内解説（釧路あかり）（小田島学芸員）
9月11日（水）床潭沼ヒブナ生息調査（佐野主任・小田島学芸員）
タンチョウの営巣等の取扱いに係る協議（オンライン）（小田島学芸員）
9月12日（木）館内解説（標茶町立虹別小学校）（小田島学芸員）
床潭沼ヒブナ生息調査（佐野主任・小田島学芸員）
9月14日（土）『海の作品展』開催（～10/16）
9月18日（水）プラネタリウム投影（釧路小学校）（川守学芸員）
9月19日（木）施設見学（浜中町立散布小学校）
館内解説・プラネタリウム投影（標茶町立標茶小学校）（小田島学芸員・川守学芸員）
尾幌・糸魚沢道路建設にかかる埋蔵文化財試掘調査（小田島学芸員）
9月20日（金）尾幌・糸魚沢道路建設にかかる埋蔵文化財試掘調査（菅原館長・佐野主任・小田島学芸員）
プラネタリウム夜間投影（佐野主任・川守学芸員・土肥主事）
9月22日（日）厚岸かぐら少年団支援（小田島学芸員）
9月26日（木）教育委員会管理職会議出席（菅原館長）
9月27日（金）新厚岸町史第3巻編集に係る聞き取り調査（菅原館長・三浦主任専門員・小田島学芸員・髙橋事務補助員）
館内解説・プラネタリウム投影（小田島学芸員・川守学芸員）
9月28日（土）第2回アッケシソウ学習会（菅原館長・小田島学芸員）
10月　1日（火）史跡国泰寺跡指定地内の道有林の取扱いについての協議（釧路総合振興局森林室）（菅原館長・小田島学芸員）
10月　2日（水）青少年科学館連絡協議会職員研修会出席（札幌市）（川守学芸員）
10月　3日（木）青少年科学館連絡協議会職員研修会出席（札幌市）（川守学芸員）
10月　4日（金）五藤光学熊切氏来館（菅原館長・川守学芸員）
10月　5日（土）プラネタリウム投影（友遊児童館）（髙橋事務補助員）
10月　7日（月）令和6年度道東3館内博物館施設等連絡協議会交流推進会議出席（帯広市）（小田島学芸員）
10月　8日（火）令和6年度道東3館内博物館施設等連絡協議会交流推進会議出席（帯広市）（小田島学芸員）
10月　9日（水）新規採用職員研修（後期）講師（小田島学芸員）
アッケシソウ自生地調査（小田島学芸員・髙橋事務補助員）
10月10日（木）真龍中学校職場体験受入
館内解説・プラネタリウム投影（釧路市立鳥取西小学校見学）（菅原館長・川守学芸員）
「海の作品展」表彰式（佐野主任・川守学芸員・髙橋事務補助員）

10月11日（金）真龍中学校職場体験受入
プラネタリウム夜間投影（佐野主任・川守学芸員・土肥主事）
10月12日（土）考古学出前教室（菅原館長・佐野主任・小田島学芸員）
10月13日（日）ファミリーマラソンサポート（髙橋事務補助員）
10月16日（水）中級職員研修受講（釧路町）（土肥主事）
10月17日（木）『海の作品展』作品返却（菅原館長・佐野主任）
10月18日（金）プラネタリウム保守点検
アッケシソウに係る寄島小学校行政視察（岡山県浅口市）（小田島学芸員）
10月19日（土）『宇宙の日絵画コンテスト作品展』開催（～11/10）
10月20日（日）厚岸かぐら少年団練習支援（菅原館長）
10月22日（火）埋蔵文化財所在調査（小田島学芸員）
10月23日（水）史跡国泰寺跡保存活用計画策定にかかる事前打ち合わせ（釧路市）（菅原館長・小田島学芸員）
10月24日（木）館内解説（くしろ市民学園「わくわくR5の会」）（小田島学芸員）
ほしぞら教室
10月25日（金）釧路市立博物館石川氏来館（菅原館長・小田島学芸員）
第6期厚岸町総合計画第6次実施計画にかかる理事者ヒアリング（菅原館長）
10月26日（土）文化財歴史講演会（菅原館長・小田島学芸員）
池田家古文書資料調査対応（国立アイヌ民族博物館佐々木館長、田村室長）（小田島学芸員）
10月27日（日）池田家古文書資料調査対応（国立アイヌ民族博物館佐々木館長、田村室長）（小田島学芸員）
10月28日（月）筑紫恋第二チャシ跡発掘調査（小田島学芸員）
10月29日（火）筑紫恋第二チャシ跡発掘調査（小田島学芸員）
10月30日（水）筑紫恋第二チャシ跡発掘調査（小田島学芸員）
10月31日（木）筑紫恋第二チャシ跡発掘調査（小田島学芸員）
新厚岸町史第3巻編集に係る聞き取り調査（菅原館長・三浦主任専門員・小田島学芸員・髙橋事務補助員）
姉妹都市国際交流事業事前学習会（小田島学芸員）
11月　2日（土）トップノッチミュージック事業手伝い（佐野主任）
11月　3日（日）ふるさと友の会視察旅行（音更町・帯広市）（佐野主任・小田島学芸員）
プラネタリウム冬番組録音（運上氏）（川守学芸員）
釧路市文化賞授賞式出席（釧路市）（菅原館長）
プラネタリウム投影（鉄道友の会）（川守学芸員）
11月　7日（木）プンカラ研修会（白老町）（小田島学芸員）
令和7年度予算編成方針説明会（菅原館長）

11月　8日（金）プンカラ研修会出席（白老町）（小田島学芸員）
　　アッケシソウにかかる出前授業（翔洋高等学校）（菅原館長）
11月　9日（土）こどもクラブ（佐野主任・川守学芸員）
11月12日（火）尾幌・糸魚沢道路建設にかかる試掘調査（小田島学芸員）
11月14日（木）第2回史跡国泰寺跡保存活用計画策定委員会（菅原館長・小田島学芸員）
　　第2回社会教育委員会出席（菅原館長）
11月15日（金）プラネタリウム夜間投影（菅原館長・佐野主任・川守学芸員・土肥主事）
11月17日（日）厚岸かぐら支援（町民文化祭）（菅原館長・小田島学芸員）
11月19日（火）天文解説（『厚岸霧多布昆布森国定公園の恵みを教授する「ALL厚岸を深く体感！
　　ガストロノミーツーリズム造成事業」』）（川守学芸員）
11月20日（水）業務量調査結果報告会出席（佐野主任）
　　天文解説（星空BAR）（川守学芸員）
11月21日（木）新厚岸町史第3巻編集に係る聞き取り調査（菅原館長・三浦主任専門員・髙橋事務補
　　助員）
11月23日（土）植物標本に関する資料調査（斉藤央氏）（小田島学芸員）
　　熟睡プラ寝たリウム（川守学芸員）
11月26日（火）プラネタリウム投影（標茶町立中茶安別中学校）（川守学芸員）
　　厚岸かぐら支援（厚岸小学校）（菅原館長・佐野主任・小田島学芸員）
　　部活動地域移行研究会出席（菅原館長）
11月27日（水）教育委員会管理職会議出席（菅原館長）
11月28日（木）厚岸町感染症対策本部会議出席（菅原館長）
11月29日（金）定例教育委員会議出席（菅原館長）
　　天体観望会
11月30日（土）水泳検定運営協力（髙橋事務補助員）
12月　2日（月）奈良文化財研究所主催「報告書編集基礎課程」受講（奈良県）（小田島学芸員）
12月　3日（火）奈良文化財研究所主催「報告書編集基礎課程」受講（奈良県）（小田島学芸員）
12月　4日（水）奈良文化財研究所主催「報告書編集基礎課程」受講（奈良県）（小田島学芸員）
　　管理職会議出席（菅原館長）
12月　5日（木）奈良文化財研究所主催「報告書編集基礎課程」受講（奈良県）（小田島学芸員）
12月　6日（金）奈良文化財研究所主催「報告書編集基礎課程」受講（奈良県）（小田島学芸員）
12月　8日（日）厚岸かぐら支援（釧路市）（小田島学芸員）
12月13日（金）令和6年度埋蔵文化財担当職員研修参加（江別市）（小田島学芸員）
　　プラネタリウム夜間投影（菅原館長・佐野主任・川守学芸員・土肥主事）
12月17日（火）パソコンスキル研修受講（菅原館長）
12月18日（水）史跡国泰寺跡保存活用計画に係る打合せ（釧路市）（菅原館長・小田島学芸員）
　　FMくしろ録音（釧路市）（小田島学芸員）

プラネタリウム投影（厚岸小学校）（川守学芸員）
12月19日（木）「宇宙の日」絵画コンテスト表彰式
JOY運営委員会出席（菅原館長）
12月21日（金）第10回こどもクラブ（菅原館長・佐野主任）
あかるいプラネタリウム（川守学芸員・土肥主事）
12月25日（水）定例教育委員会出席
史跡国泰寺跡保存活用計画にかかる打合せ（オンライン）（小田島学芸員）
1月　5日（日）厚岸かぐら支援（菅原館長・小田島学芸員）
1月15日（水）総合計画審査特別委員会（菅原館長）
1月17日（金）中小企業同友会講演（菅原館長・小田島学芸員）
夜間投影（菅原館長・佐野主任・川守学芸員・土肥主事）
1月18日（土）なつかしの道具たち展示開始（～2/16）
1月22日（水）教育委員会管理職会議出席（菅原館長）
1月23日（木）館内解説（真龍小学校）（小田島学芸員）
1月24日（金）新厚岸町史第3巻編集に係る聞き取り調査（菅原館長・三浦主任専門員・小田島学芸員・髙橋事務補助員）
1月25日（土）第11回こどもクラブ（菅原館長・佐野主任）
1月29日（水）館内解説（厚岸小学校）（小田島学芸員）
1月31日（金）令和6年度アイヌ文化財専門職員等研修会受講（札幌市）（小田島学芸員）
定例教育委員会
2月　5日（水）史跡国泰寺跡保存活用計画にかかる打合せ（オンライン）（菅原館長・小田島学芸員）
2月　6日（木）文化財防火デーに係る正行寺消防訓練及び太田屯田兵屋視察（小田島学芸員）
2月　7日（金）プラネタリウム幼児用春番組録音（水内氏）（川守学芸員）
2月　8日（土）プラネタリウム一般向け春番組録音（運上氏）（川守学芸員）
2月14日（金）施設見学（太田小学校）
2月15日（土）第12回こどもクラブ、厚岸かぐら少年団練習支援（佐野主任・小田島学芸員）
2月18日（火）「博物館新規登録制度：疑問や課題の解決相談会」参加（オンライン）（小田島学芸員）
2月19日（水）JOY運営委員会出席（菅原館長）
2月20日（木）屯田兵関係資料調査（北見市）（小田島学芸員）
2月21日（金）屯田兵関係資料調査（湧別町）（小田島学芸員）
教育委員会管理職会議出席（菅原館長）
プラネタリウム夜間投影（佐野主任・川守学芸員・土肥主事）
2月24日（月）蝦夷錦貸出に係る立会（小田島学芸員）
2月26日（水）安全運転講習会受講（菅原館長）
管理職会議出席（菅原館長）
JOY保護者説明会参加（菅原館長）

2月27日（木）第3回史跡国泰寺跡保存活用計画策定委員会（菅原館長・小田島学芸員）
2月28日（金）「オリジナル星座をつくろう！」応募作品上映会
3月　1日（土）特別展「北門の鎖鑰　太田屯田兵村」開催（～4/6）
3月13日（木）第2回文化財専門委員会（菅原館長・小田島学芸員）
3月14日（金）新厚岸町史第3巻編集に係る聞き取り調査（菅原館長・三浦主任専門員・小田島学芸員・髙橋事務補助員）
プラネタリウム夜間投影（佐野主任・川守学芸員・土肥主事）
3月15日（土）釧路市立博物館戸田氏来館（菅原館長）
3月18日（火）町内竪穴群調査（小田島学芸員）
3月19日（水）町内竪穴群調査（小田島学芸員）
教育委員会管理職会議出席（菅原館長）
3月20日（木）海事記念館学芸員講座
3月23日（日）第12回こどもクラブ（菅原館長・佐野主任）
3月25日（火）館内解説・プラネタリウム投影（小田島学芸員・川守学芸員）
3月26日（水）プラネタリウム投影（放課後等デイサービス音色）（川守学芸員）
3月27日（木）北海道古代集落遺跡群第4回定例代表者会議出席（オンライン）（小田島学芸員）
出退勤の取扱いに係る説明会出席（小田島学芸員）
埋蔵文化財所在調査（小田島学芸員）
政策会議出席（菅原館長）
3月28日（金）FMくしろ録音（釧路市）（小田島学芸員）

郷土館・太田屯田開拓記念館

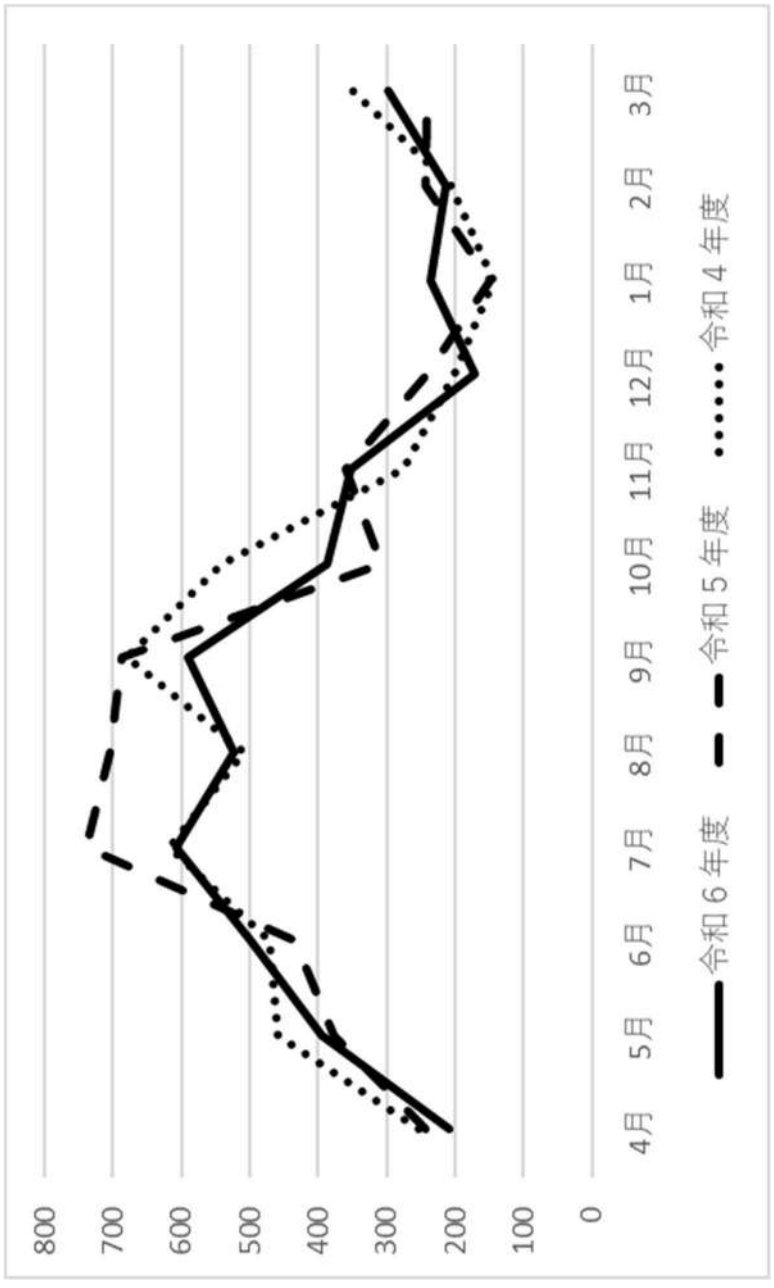
4月16日（火）【郷土館・太田】開館
4月23日（火）【郷土館】仙台藩白老元陣屋資料館　武永館長来館（小田島学芸員）
5月11日（土）【郷土館】NHK撮影対応（小田島学芸員）
5月17日（金）【太田】施設見学（弟子屈町老人クラブ美里寿の会）
6月28日（金）【郷土館】館内解説（北前船フォーラム関係団体）（菅原館長）
7月　5日（金）【郷土館】館内解説（森と川の舎）（小田島学芸員）
7月　9日（火）【郷土館】館内解説（ワールド航空サービス）（小田島学芸員）
7月10日（水）【太田】施設見学（虹別公民館事業文化協会）
7月19日（金）【郷土館】仙台藩白老元陣屋資料館　武永館長来館（小田島学芸員）
7月25日（木）【郷土館】館内解説（厚岸町転入教員）（小田島学芸員）
8月　7日（水）【郷土館・太田】館内解説（太田中学校山口校長）（小田島学芸員）
8月　8日（木）【太田】施設見学（釧路町陸上自衛隊）
8月17日（土）【郷土館】アッケシソウ栽培地解説（こどもクラブ）（菅原館長・佐野主任）
9月　7日（土）【郷土館・太田】館内解説（釧路学教養講座）（小田島学芸員）
9月14日（土）【太田】館内解説（こどもクラブ）（佐野主任・小田島学芸員）
9月19日（木）【郷土館】和歌山県上野氏来館（小田島学芸員）
9月28日（土）【郷土館】館内解説（読売旅行）（小田島学芸員）
【太田】新潟県新発田市立歴史図書館鈴木氏来館（小田島学芸員）
10月24日（木）【郷土館】館内解説（釧路市民学園）（小田島学芸員）
11月13日（水）【郷土館】文化庁小野調査官来館（菅原館長・小田島学芸員）
11月15日（金）【郷土館】館内解説（厚岸小学校）（小田島学芸員）
11月16日（土）～ 【郷土館・太田】冬季閉館

Ⅵ.博物館の利用状況

博物館入館者の推移

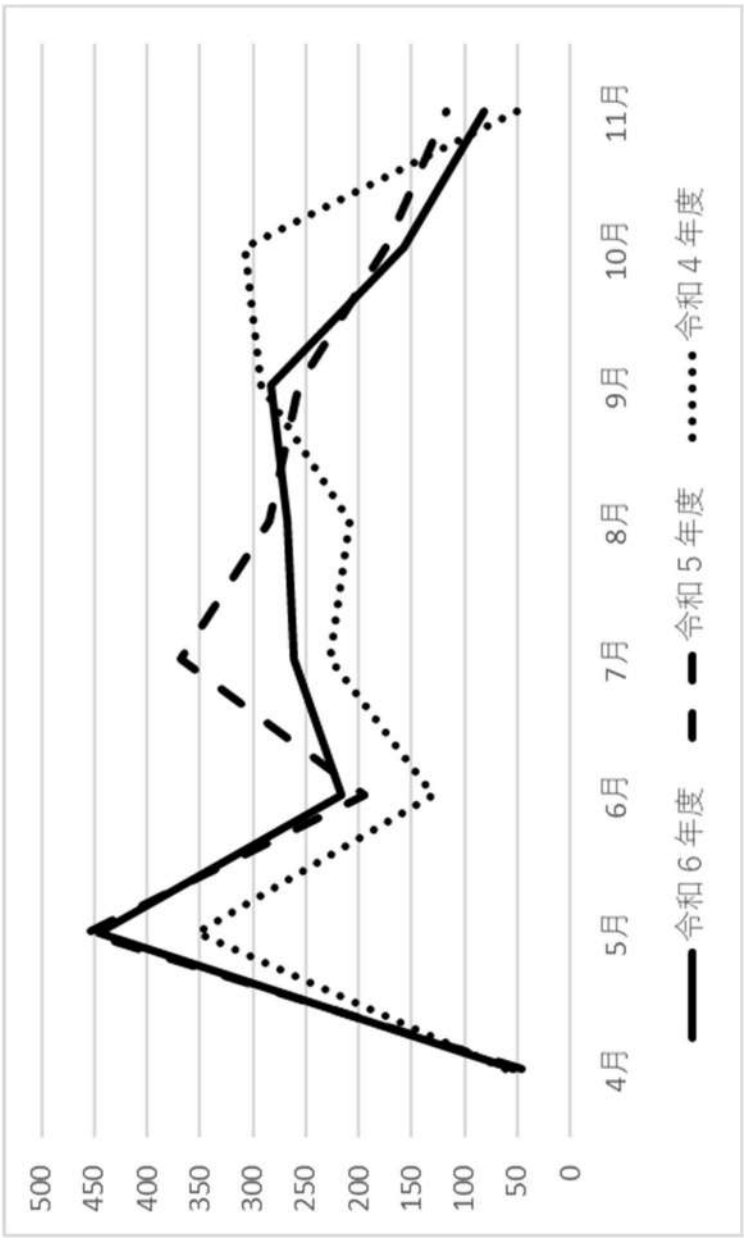
(1).海事記念館

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
令和６年度	208	395	500	607	524	590	387	352	171	236	215	299	4484
令和５年度	243	378	435	739	705	688	308	360	241	149	243	240	4729
令和４年度	253	459	473	617	508	679	541	277	202	144	207	350	4710



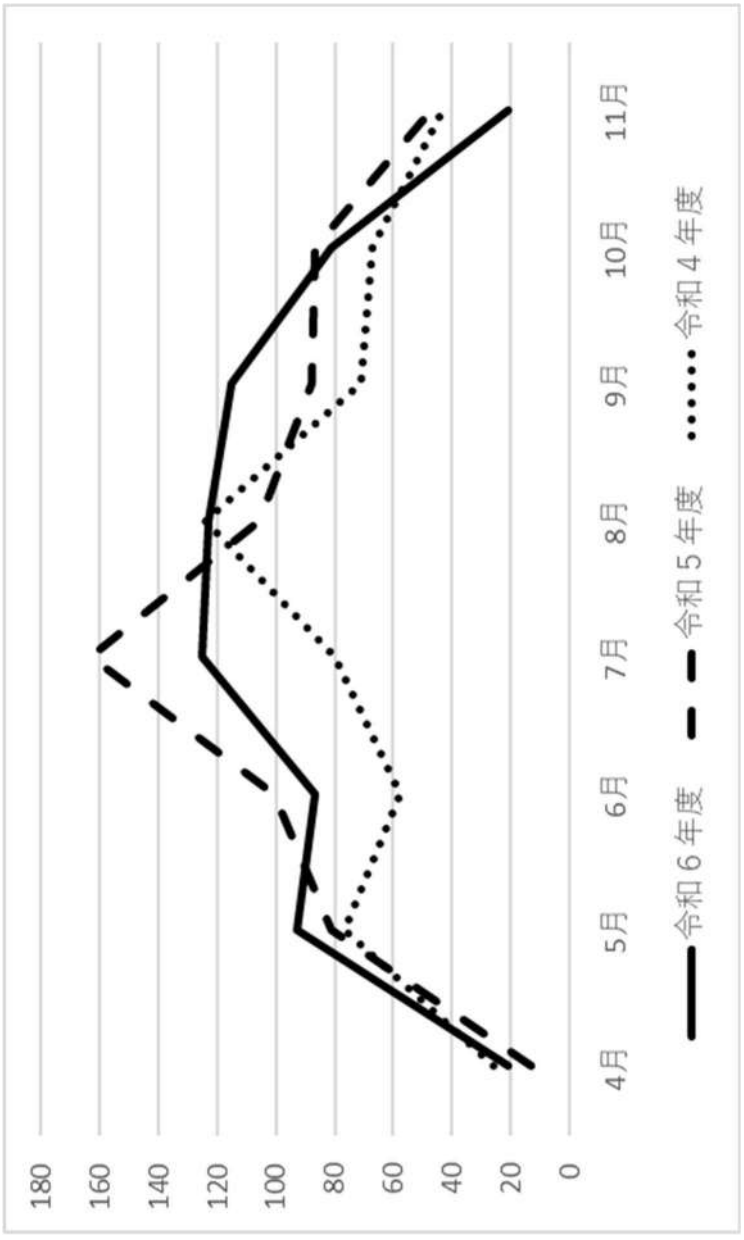
(2).郷土館

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
令和６年度	54	446	216	261	268	283	157	82					1767
令和５年度	46	456	194	369	284	257	175	118					1899
令和４年度	61	353	129	227	209	292	308	51					1630



(3)太田屯田開拓記念館

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
令和５年度	13	81	101	163	106	88	87	47					686
令和４年度	26	77	58	80	124	71	67	43					546
令和３年度	16	39	52	58	76	43	81	78					443

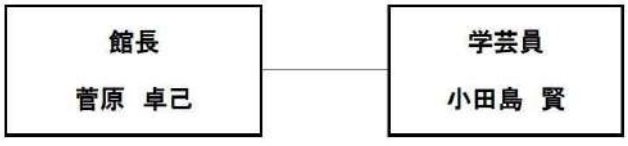


Ⅶ.博物館の組織

海事記念館組織図



郷土館･太田屯田開拓記念館組織図



2024年4月18日　北海道新聞

アッケシソウ種まいたよ

厚岸小 プランターで成長記録

【厚岸】厚岸小4年生（18人）が、町の名を由来とする塩生植物アッケシソウのプランター栽培を同校で始めた。総合的学習として秋の紅葉まで成長を記録する。17日は、町海事記念館の職員と種をまき、生育に適する海水を与えた。

町教委のアッケシソウ普及事業の一環。厚岸湖奥の自生地以外では見る機会が少ないアッケシソウを児童に身近に感じてもらうとともに、プランターでの栽培ノウハウ確立へ栽培記録を役立てる。

この日は同館の小田島賢学芸員が、アッケシソウは秋になると紅葉することなど特徴を説明。「アッケシソウは海水の栄養で育ちます。1日1回ぐらい水をまいて、みんなで頑張って育てて」と呼びかけた。

その後、児童たちは6班に分かれプランター作りに挑戦。同館の佐野遥主任らと、プランターに保水力のある培養土を高さ15㌢ほどに敷き詰めた。その上に昨年秋に採取した枯れ草を手でもんで、1㍉もない種を100粒ほど落とした。児童たち「種は白く、小さいんだ」などと感心。最後に厚岸湾の海水をじょうろで散布した。

越野凛美さん（9）は「アッケシソウを枯らさないように水をあげ、グループで育てたい」と話した。

プランターは、栽培環境の異なる校内外の3カ所に設置され、児童が生育状況を記録する。（大滝伸介）



プランターにアッケシソウをもみ、種を落とす厚岸小の児童

©北海道新聞社

2024年5月18日 北海道新聞



厚岸町海事記念館に常設された全国豊かな海づくり大会記念コーナー

【厚岸】町海事記念館（真栄 3）は、昨年秋に厚岸を主会場に開かれた全国豊かな海づくり大会道大会の記念展示コーナーを新設した。式典の映像などを収録した DVD を上映、ゆかりの品も展示している。「町民をはじめ多くの方の協力で実現した」（同館）ことを踏まえ、常設とする。

2 階展示室（約 110 平方メートル）の半分を充て、職員が展示台を手作りしたり、魚やコンブなどをイメージした飾りをあしらった。若狭靖町長の発案で実現した。

天皇、皇后両陛下が出席した厚岸での式典や釧路会場、厚岸漁協所属の漁船が港内をパレードする海上歓迎行事の映像を収録した DVD（実行委制作）を繰り返し再生する。厚岸かぐらの歓迎の舞をはじめ、厚岸町吹奏楽団や釧路市の太鼓保存会の歓迎演奏の様子なども伝えている。

主な展示品では、大会の機運醸成の一環として厚岸翔洋高生（当時）がデザインしたカウントダウンボードや、大会当日に使われた稚魚の放流台が目を引く。両陛下から漁業関係者に手渡されたカキやウニなどの稚魚を入れていた容器も解説文付きで紹介している。

菅原卓己館長は「写真やパネル、さかなクンが描いた絵もあり、見どころがたくさんです」と話す。

2024年5月21日　北海道新聞



試験栽培地で行われたアッケシソウの種まき。手前は自然発芽したアッケシソウ

アッケシソウ 試験栽培最終年度

地面高い区画 発芽良く

【厚岸】町の名を由来とする塩生植物アッケシソウの群落再生を目指す試験栽培が、本年度も厚岸湖畔チカラコタン地区で進められている。3カ年事業の最終年度で、適切な環境や栽培法などを探りながら、次年度以降の取り組み方を判断する。

アッケシソウは、潮の干満で定期的に冠水する塩湿地に自生する一年草。環境省が絶滅危惧種に指定しており、町内の自生地は海水と淡水が混じる厚岸湖の一部ほどだ。

試験栽培では、栽培区画を地面の高い区画（標高50㌢）と低い区画（同35㌢）に分け、それぞれ土質も「湖岸の土」と「現地以外の砂」にした。土地の高さは、群生地として知られる能取湖（網走市）のアッケシソウ再生事業を参考にした。2年目の生育状況調査では地面の高い区画が海水に適度につかり、好成績だった。

本年度は4月中旬、町海事記念館の菅原章己館長と佐野遥主任、小田島賢学芸員が海水の取水口や導水管を清掃。干潮時、四つの栽培区画に種をまいた。

栽培区画では、枯れたアッケシソウから落ちた種の芽が地面の高い区画ほど多く出ている半面、低い区画には芽が少ないことを確認。低い区画を中心に、種の入った枯れ草を地面に置き、満潮時に流れ出ないように詰め込めた。

菅原館長は「芽は地面の高い方が圧倒的に多い。地面の低い方は芽も小さい。栽培3年目は差が顕著に表れている」と話した。（大滝伸介）

©北海道新聞社

2024年5月30日　北海道新聞

大粒のアサリ掘った　厚岸小児童、牡蠣島弁天神社で体験

2024 年 5 月 30 日　北海道新聞



掘り起こしたアサリを手にする厚岸小の子どもたち（厚岸小提供）

【厚岸】厚岸小 6 年生が、厚岸の浜のシンボルで厚岸湖内にある「牡蠣（かき）島弁天神社」周辺で特産のアサリ掘りを体験した。学芸員の講話も行われ、漁業や神社について理解を深めた。

採捕体験は、奔渡自治会などでつくる弁天神社の保存会が同校を対象に昨年から行っている。今年は 24 日に行われ、児童 12 人のほか、漁業者と教員ら十数人も参加した。

参加者は干潟の「牡蠣島」に漁船で渡航。町海事記念館の小田島賢学芸員が厚岸湖の概要や弁天神社のできた経緯などを説明。神社が古文書の記述から建立後 230 年以上たっており、神社にまつられている極彩色の「弁財天坐像（ざぞう）」が町有形文化財に指定されているなどと伝えた。

その後、子どもたちは、熊手やゴム手袋をはめた手で神社周辺の干潟を掘り、大粒の貝を採った。初めて体験する子は採り方を教えてもらいながら挑戦した。父親が漁業者で漁を手伝う毛利源志さん（11）は「友だちと話しながらのアサリ掘りも楽しかった。また行きたい」と話した。掘り出したアサリは持ち帰った。

2024年6月2日　釧路新聞

海洋環境理解深める　厚岸で教育イベント

【厚岸】フランスのファッションデザイナー、アニエスベー氏が２００３年に立ち上げた海洋環境に特化した財団の日本支部「タラオセアンジャパン」が主催するブルーカーボンプロジェクトが１日、町内で開かれた。主なテーマのマイクロプラスチック根絶から、今年はブルーカーボンに重きを置き、臨海実験施設のある国内４か所で実施する教育イベント。厚岸は２か所目の開催地で道内では唯一開かれた。（五味亜希子）

海洋調査や研究を行う国内大学付属の臨海実験所をつなぐネットワーク組織「マリンバイオ共同推進機構（ＪＡＭＢＩＯ）」と連携した事業の一環で、海洋生物が地球温暖化の原因となる二酸化炭素（ＣＯ2）を吸収するブルーカーボンのメカニズムを全国的に調査する傍ら、一般に広めることを狙いとしている。

この日は地元の小学生や一般の親子など２０人余りが参加し、北海道大学厚岸臨海実験所（町愛冠、仲岡雅裕所長）で海洋生物の生態系について実験を通し理解を深めた。呼気を入れて青色から緑色に変化させた試薬を使った実験では、試験管の片方に海藻を入れ試薬に浸し色が変化するかを調べた。数十分後、海藻を入れた方の試薬がＣＯ2が吸収され青色に戻ったことを確認すると、子供たちから「戻ってる」「すごい」などと歓声が上がった。

実験の前には厚岸湾岸に漂着した漁網やロープの切れ端、ペットボトルなどのごみを拾い集め、同財団のパトゥイエ由美子事務局長は「プラスチックが細かくなる前に、こうして拾えるうちはまだいい方。普段からプラスチックをできるだけ使わないことを心掛けてほしい」と呼び掛けていた。イベントを偶然ＳＮＳで見つけ釧路町から家族３人で参加した襄（ほろ）主（ぬし）寛（とも）子（こ）さん（４４）は「壮大な内容にもかかわらず子供でも分かりやすくブルーカーボンを学べて良かった」と話していた。



[写真／海藻の二酸化炭素吸収を調べる実験で湾内で採取した海藻に触れる参加者]

2024年6月21日　北海道新聞

繊細なアッケシソウ、官民一体で再生狙う　厚岸町海事記念館が町民学習会

2024 年 6 月 21 日 北海道新聞



チカラコタン地区の試験栽培地でアッケシソウを間近に観察する参加者たち

【厚岸】町海事記念館は、町の名を由来とする塩生植物アッケシソウに関する町民向け学習会を町内で開いた。群落再生に取り組んでいる町が、アッケシソウへの関心を高めて行政主体から官民一体による普及活動を進めるのが狙い。参加者は試験栽培地でアッケシソウに触れて、再生活動への理解を深めた。

16 日にあり、15 人が参加。海事記念館で、菅原卓己館長がアッケシソウの名の由来や生育地のほか、四十数年前に始まった町の栽培の経緯や苦労したことなどを説明。2022 年度から湖岸のチカラコタン地区で取り組む群落再生事業などについても語った。その上で「町の名前が付いたアッケシソウは厚岸町の宝物。誰もが見られるように行政と町民が一体で取り組み、活用を考えたい」と訴えた。

その後、参加者はチカラコタン地区の栽培地で芽吹いたアッケシソウを観察。「プクプクで肉厚」と見入り、小さな種を手のひらに広げていた。小田島賢学芸員は湖から導水管を引き、土壌と海水のつかり具合が異なる四つの区画で生育状況を見極めていると解説。「アッケシソウは非常に弱い植物。手を掛けて育てて景観を守っていきたい」と話した。

学習会は、秋の紅葉期にも計画されている。

忘れえぬ人々

伊福部　昭

作曲家・釧路市出身

㊥ 厚岸の森で

自然、アイヌ音楽から影響

ダケカンバの林を抜けると、広大な草原が広がる。厚岸町中心街から十数キロ離れた原生花園あやめケ原。岬の西に小島が浮かぶ太平洋、東に断崖が切り立つ。

「伊福部さんはこの景色を眺め、曲を構想したのでしょう」。町海事記念館学芸員小田島賢(31)は、あやめケ原先端の岬「チンベの鼻」から海原を見渡しながら言った。

伊福部が1937年(昭和12年)に発表したオーケストラ曲「土俗的三連画」は厚岸の風土を題材にしている。第1楽章「同郷の女たち」は、コンブ漁の活気をアイヌ音楽のリズムで表現。第2楽章「ティンペ」は、あやめケ原の岬「チンベの鼻」からとった、もの悲しいバラードだ。

伊福部は、北海道帝国大(現北大)卒業後の35年(同10年)、道の林務官に就き厚岸町に赴任した。手には、バイオリンケース。厚岸湾岸にあった五味旅館(現ホテル五味)で下宿生活を送った。

夜の小屋で創作

道有林が生育しているあやめケ原は仕事場の一つだった。近くに宿泊できる小屋があり、日中は林務に従事し、夜は風のざわめきや雨音を聞きながら作曲に没頭した。

伊福部にとって森での体験は驚きの連続だった。長女の玲(79)＝鳥取市＝や教え子たちに何度も当時のことを語った。

冬の朝、小屋で目が覚めると、前夜書き上げた楽譜の上に窓から入った雪が積もっていた。食糧が尽き、ハクチョウを撃って食べた。伐採事故で亡くなった作業員を乗せた馬車の鐘の音と馬の足音が、もの悲しく森に響いた―。話題は尽きなかった。

「厚岸の生活が間接的に私の中に何か影響を与えていることは明らか」。75年発行の厚岸町史に寄せた随筆で、伊福部はこうつづっている。

厚岸ではアイヌ民族からも大きな影響を受けた。仕事で森を回るうちにコンブ漁に励むアイヌ民族たちと親しくなった。森に泊まる日は、長老たちが小屋を訪れ、伊福部に昔話や歌を聞かせた。

変拍子に色濃く

伊福部の代名詞とされるゴジラのテーマ曲は「ドシラ、ドシラ、ドシラソラシドシラ…」と、4拍子と5拍子を組み合わせた変拍子が繰り返される。

伊福部を約30年にわたり取材した札大教授(政治思想史)で音楽評論家の片山杜秀(60)＝東京＝は、「変拍子はアイヌ音楽の影響」とみる。「伊福部先生がアイヌコタンを訪ねると、みんな即興で思いつくまま歌い、自然と変拍子になっていたと聞いた」と回想する。

伊福部は、9歳から3年間暮らした十勝管内音更町でアイヌ民族と交流し影響を受けたことでも知られるが、片山は「厚岸でのアイヌ民族との交流も作曲に影響を与えている」と話す。「青年期を過ごした厚岸で、自分の中の北方性やアイヌ文化への感覚を自覚したはず。厚岸なくして伊福部音楽に今のような深まりはなかった」

伊福部は厚岸、音更で交流を深めたアイヌ民族に深い共感を抱いていた。2005年の末、玲に「ビデオカメラで、私の語りを録画して」と頼んだ。語ろうとしたのは、チンベの鼻にまつわるアイヌ民族の伝説だった。和人に差別されたアイヌ民族が岬から落ちて死んだとされる伝説で、それにまつわるむごい話を長老たちから聞かされたという。

「誰にも話せずにいたが、不当な差別をなくすために記録してほしい」と玲に告げた。しかし、玲がビデオカメラを購入し収録準備を整えた2006年1月、伊福部は体調を崩し入院。翌2月8日に91歳で他界した。収録は実現できなかった。

玲は「父はアイヌ民族の方たちの無念を代弁しようとしたのでしょう」と話す。

(佐竹直子)

＝敬称略＝





㊤五味旅館の前で、無頼の従業員らに囲まれる伊福部(中央)。手にはバイオリンケースを持っている(一九七九年ごろ伊福部昭の会提供)

㊦あやめケ原の岬「チンベの鼻」に立ち、「伊福部さんもこの風景を眺めていたはず」と絶賛を見渡す、町海事記念館の小田島賢学芸員(右)。三浦博巳専門員(左)とともに厚岸時代の伊福部のことを調べてきた

玉川大学
通信教育 入学説明会
(一斉説明&個別相談) 事前予約制
7/13(土) 14:00~16:00 釧路市生涯学習センター (末広ばっと南館)(学習室502) 釧路市幸町10-3
7/14(日) 14:00~16:00 とかちプラザ (研修室307) 帯広市西4条南 13-1
教育学部教育学科/取得可能免許・資格
【免許状】幼稚園/小学校/中学校(社会・音楽)/高等学校(公民・情報歴史・数学)
【資 格】司書/学芸員/社会教育主事(任用)/社会教育士/学校図書館司書教諭
※出入学に関わって条件あり。詳細は学校または事務局まで。
資料請求および詳細は下記または事務局まで。
入試広報部 入試広報課
東京都町田市玉川学園6-1-1
042-739-8892
説明会のご予約はこちらから▶

©北海道新聞社

2024年9月19日　北海道新聞

アッケシソウ映える赤　厚岸・チカラコタン試験栽培地

2024 年 9 月 19 日北海道新聞



試験栽培地で赤く色づくアッケシソウ

【厚岸】町の名を由来とする塩生植物アッケシソウが、汽水湖の厚岸湖畔チカラコタン地区の試験栽培地で見ごろを迎えている。秋の陽光を浴びたプクプクで肉厚の赤い実が青空に映えた。

アッケシソウは塩水を含む砂地に自生する 10～30 センチの一年草で、環境省指定の絶滅危惧種。約 130 年前に発見された厚岸湖畔では地盤沈下により自生地が激減。町は 2022 年度から湖岸に近い同地区の試験栽培地（約 1500 平方メートル）で群落再生事業に取り組む。湖から導水管を引き、土壌と海水のつかり具合が異なる四つの区画で生育状況を見極めている。

今年は 4 月上旬には、自然にこぼれ落ちた種子から発芽し、9 月上旬から色づき始めた。現在は海水につかりすぎない湖岸の土の区画が最も赤く、背丈は最大 15 センチほどに。株数も増えた。他区画では雑草に栄養を取られたのか背丈の低いものも見られた。

同記念館の小田島賢学芸員（31）は「来季の栽培方法は年末にも専門家と協議したい」と話した。見ごろは月内の見通し。

2025年1月24日　北海道新聞

昭和の道具、懐かしく　厚岸・海事記念館で企画展

2025 年 1 月 24 日　北海道新聞



企画展で並んだ懐かしいダイヤル式電話機やブラウン管テレビ

【厚岸】昭和の暮らしを支えた品々を集めた企画展「なつかしの道具たち」が町海事記念館（真栄3）で開かれている。かつて多くの家にあった黒いダイヤル式電話のほか、ブラウン管テレビや真空管ラジオなどに、来場者が見入っている。

町民から寄付された 18 点を展示。電話は、全国で最も流通した黒い「600 形」などを紹介。電話の歴史や仕組みについて説明している。

テレビは約 40 センチの厚さで、電源スイッチは指で引っ張り、つまみを回して選局する方式。白黒テレビもある。ご飯を炊く「つば釜」や洗濯板、炭火を使うアイロンなども並ぶ。

入場無料。2 月 16 日まで。午前 9 時～午後 5 時（月曜、祝日の翌日休み）。
同館は平成初期の CD ラジカセやゲーム機、漁具、町並み写真などの寄贈を受け入れている。

付　編　1

令和6年度特別展「北門の鎖鑰　太田屯田兵村」解説冊子

次ページ以降は、令和7年3月1日（土）から4月6日（日）まで厚岸町海事記念館で開催した特別展「北門の鎖鑰（さやく）太田屯田兵村」のパネルを文章化したものです。

本稿の別刷をご希望の方は海事記念館（0153-52-4040）までご連絡ください。



屯田兵は、日常は集団で農業に従事し、有事の際には兵隊として活動する土着兵です。屯田兵制度は明治７年に設けられ、明治32年まで全道で37の兵村が作られました。

太田村は、明治23年に全国８県の士族440戸が屯田兵として移住してできた太平洋側の屯田兵村です。明治３７年に屯田兵制度が終了して、今年度で１３０年度が経過した今、あらためて資料と文献からその軌跡を辿ります。



厚岸町指定天然記念物
「太田屯田の赤松」

2025年 3/1（土）» 4/6（日）

開館時間 9:00 ～ 17:00
※月曜日または祝日の翌日は休館

厚岸町海事記念館１階ホール

入場無料

【問い合わせ先】
厚岸町海事記念館
TEL/FAX 0153-52-4040
E-mail k-kaiji@akkeshi-town.jp

・屯田兵とは・・・

屯田兵は、明治政府により北海道の警備や開拓・家族移住をすすめるためにつくられました。屯田兵の仕事は、主に平時は農民、戦争などの有事の際には兵隊として働くことでした。

明治8年（1875年）に琴似に入地して以来、明治32年（1899年）に至るまで37の兵村が北海道各地に作られました。屯田兵は総計7,337戸を数え、家族も合わせて39,111人が入地したといわれています。

太田屯田兵村は、明治23年（1890年）に現在の太田地区に作られ、北太田兵村・南太田兵村にそれぞれ220戸の士族が入地しました。

本特別展は、太田地区に屯田兵が入地した明治23年から屯田兵制度が廃止となった明治37年（1904年）までの15年間にスポットをあて、文献と屯田兵に関係する資料から、屯田兵に関する一般的事項を含めた「太田屯田兵村」としての軌跡を辿ります。

・「屯田兵」の歴史

「屯田兵」の歴史は古く、中国では漢の時代、ヨーロッパでは東ローマ帝国までさかのぼります。

ユーラシア大陸では、様々な民族が広範囲にわたって移動していたため、至る所で民族紛争が起こっていました。特に騎馬民族は長距離の移動を行うため、よく農耕民族の定住地に侵入することがあったようです。

屯田兵はこうした騎馬民族の侵入に備え、長期にわたって、辺境地帯に軍兵を駐屯させる制度で、「軍屯」または「民屯」の形態の兵隊が各地で生まれました。

中国では、漢の武帝の時代に敦煌などの西域諸国からの守りとして置いたものに端を発します。

三国時代では魏・呉・蜀それぞれに屯田兵が設置され、周辺国や民族との戦いに備えていました。その後、唐・宋・明・清でも屯田兵が設置されています。

一方ヨーロッパでは、東ローマ帝国がイスラム帝国と対抗するために、トルコ半島に駐留する軍団の守備範囲をそのまま行政区として機能させ、現地農民を兵士として採用しました。これはテマ制と呼ばれますが、屯田制度と同様のものと考えられています。

近世の帝政ロシア時代は、南方の備えの兵士としてウクライナ地方に「コサック騎兵」を配備しました。

北海道庁長官の永山武四郎は、このコサックの兵制を参考にして、北海道の屯田兵を強化しようとしていました。

日本においては、古代の大和政権において、蝦夷征伐のなかで屯田（みた）という言葉が登場します。これは大和朝廷の直轄地を指しているので、別の意味を持つと考えられています。

その後、飛鳥時代に唐や新羅からの侵攻に備えた防人が登場し、これが日本における最古の屯田兵的な性格を持っていたと考えられます。

・屯田兵制度のなりたち

明治政府は、明治2年（1869年）7月に蝦夷地に「開拓使」を設置し、同年8月には蝦夷地が北海道へと改称し、本格的な開拓に着手しました。

開拓使は、欧米の文化・技術を積極的に取り入れ、それをもとに農業・工業などの新しい産業を興し、開拓の基盤を固めるとともに、北方の警備に努めました。

このような経過があり、ロシアの南下に対する国防と北海道の開拓、さらに士族の失業者に仕事を与える目的から、明治7年(1874年)に開拓次官であった黒田清隆により屯田憲兵令則が制定されました。屯田憲兵令則では編制・検査・昇級・勤務・休暇・給助・諸官の職務という7項目が規定され、これが屯田兵制度の基礎となりました。

屯田兵制度は、屯田兵が明治8年以降に北海道に入地してから、徐々に確立していき、明治23年(1890年)で大改正を迎えるほか、明治37年(1904年)に廃止となるまで、度々時世に合わせて変化していきました。

・屯田兵村の誘致

明治10年代の厚岸は漁業が基幹産業であり、ニシンの不漁が続いたことに加え魚価が下落したため、低迷状態にありました。そうした状態にあったため、住民の流出を防ぐ目的として、当時厚岸で有力な商人であった中元寺清七氏ら4名が、屯田兵の誘致活動を行い、明治18年(1885年)に根室県に対し請願書を提出しました。この頃は、標茶では釧路集治監の設置が決まり、厚岸から移転する者がいたほか、根室(後の和田兵村)での屯田兵村の設置が決定していました。

請願書の内容は、「厚岸は天然の良港をもち、根室よりも気候が良く、農業や林業に適しているため、ぜひ屯田兵を設置してほしい」というものでした。

その後、中元寺氏らは屯田兵の入植予定地として、ノコベリベツ(残縁別)とベカンベウシ(別寒辺牛)の中間あたり(現在の奥別寒辺牛付近)を選定しました。

・土地の選定

中元寺氏らの選定した土地を知った太田紋助は、この奥別寒辺牛付近の地が不可であることを述べ、強硬に反対しました。当時、紋助は厚岸アイヌの総代であり、貧窮するアイヌの救済のため、現在の糸魚沢地区あたりに共同開墾地を設けていました。そのような経験から紋助はみずから山野に踏み入り、土地の広狭や地質・気候・草木の生育状況・飲料水の確保などの基準から調査を行いました。

その結果、当時の真龍村から北西に1里(約4㎞)離れた、自分が所有するヤマコベツ農場の奥の高台を選定しました。屯田兵本部長の永山武四郎も厚岸付近の土地を巡察し、ヤマコベツ一帯が最高評価を得ています。これにより兵村設置予定地が決まり、誘致活動を行っていた中元寺氏らもそれを受け入れました。なお、この予定地は兵村名が決定するまで、仮に「真龍村字ホマカイ」と呼ばれました。

・太田紋助について

太田紋助(1846～1892年)は、厚岸場所請負人の山田文右衛門の番人であった中西紋太郎を父に、厚岸郡奔渡村(当時)のシラリコトムを母に誕生しました。

幼名はサンケクルといい、父の死後、8歳の時から国泰寺の寺男として働き、国泰寺8代住職の香山智聞から読み書きやそろばん、農業について実地で学び、「太田紋助」と名を改めました。その後、牧畜取扱雇や駅逓馬看守人などの公職のほか、昆布場の経営など、農業以外にも多くの仕事を行います。

屯田兵村の設置に関して、土地の選定を行った功績から、紋助の姓をとって兵村の名を「太田村」としました。



図1　太田紋助

・太田兵村への入植

明治23年（1890年）、屯田兵とその家族は県ごとに指定された港に集まり、輸送船に乗って北海道へと渡りました。太田村の屯田兵は3便に分かれて厚岸へと渡りました。

各県から函館を経由して、厚岸へ到着した屯田兵とその家族は宿割りにしたがい、1泊したのち、稲荷神社（現在の鹿島稲荷神社）の前に集まりました。ここでは、幹部将校立ち合いのもと、くじを引き、これから居住する兵屋を決定しました。くじ引きには、違う郷里の人達の文化等の知識を交換するため、また郷里の人達が隣り合うと江戸時代の身分や階級を持ち込み不都合が生じるからという理由から行われました。

・兵屋への入居

太田村へとたどり着いた屯田兵たちは、下士官の案内で門柱の番号札を探して兵屋へと入居しました。高い木々に覆われて兵屋の内部は暗く、炉には青竹や蕨が生えていたため、郷里との落差に泣き崩れる家族もいたようです（『西野家行嚢帳』）。

屯田兵の家族は到着した日から5日のあいだ、炊き出しを受けました。板木が鳴らされ、各道路に設けられた事業所に鍋や桶を持ち寄って配給を受けました。

こういった配給のもほかに、各屯田兵とその家族には「屯田兵移住給与規則」にしたがって家具や夜具、農具・種子などが現品で支給されました。

入居の翌日には郷里から持参した荷物が届き、「屯田兵」としての生活がはじまりました。

・太田屯田兵屋について

太田兵村の兵屋は、明治22年（1889年）に標茶集治監の囚人によって492戸建設されました。

建坪17.5坪の平屋造りで、中は6畳、4.5畳の和室と8畳大の板の間、屋根は柾葺き、壁は板張りという質素なものでした。

また、兵屋の特徴として「裏返し型」という向い合う建物の構造が、道路を挟んで対称になる建築方法で建てられています。

現在残っている兵屋は、兵屋番号119番で、屯田兵制度廃止後、住居として使用されていたものを昭和46年（1971年）に復元し、当時の所有者であった松本英男氏から町に寄贈されたものです。この兵屋は、昭和49年（1974年）、北海道の有形文化財に指定されました。

・太田屯田兵のふるさと

明治22年（1889年）9月、陸軍省は次年度に空知郡（滝川）と厚岸郡（太田）に880戸募集することを告示しました。1中隊につき220戸の編制で、空知・厚岸に2中隊の配置で募集しました。

太田兵村には、宮城・山形・新潟・石川・福井・和歌山・兵庫・山口の8県から集められました。出身者の内訳は以下のとおりです。

・屯田兵の日課

屯田兵の仕事は教練（兵隊としての訓練）と土地の開墾・農事でした。1日のスケジュールは規則で定められ、就業中は兵村を出ることは許されませんでした。

勤務時間の割り振りは「教練は午前に3時間、午後に3時間ずつ行われ、開墾を行う暇がなかった」という人や、「午前は教練、午後は開墾」という人もおり、はっきりとしません。

・給与地と追給地

屯田兵1戸には兵屋周辺の宅地5,000坪（約1.6ha）の土地が入植時に与えられ、この土地の開墾に励みます。この5,000坪の開墾が終われば追給地として新たに5,000坪が与えられます。その5,000坪も開墾が終了した際には、更に5,000坪が与えられ、計15,000坪の土地を持つことができます。

なお、下士官（曹長・軍曹）は追加で5,000坪が増給され、計20,000坪を持つことが可能でした。

この追給地は開墾を終えた順番で支給されるため、開墾の早い者は自身の兵屋に近い土地を得ることができました。

太田兵村は厳しい環境の中、土地の開墾を行わなければならなかったため、開村後10年を経過しても兵村全体の約3割の開墾率で、全37屯田兵村の中で最低の士別に次ぐ開墾成績でした。

・屯田兵の服務期間

屯田兵の服務期間は当初定められていませんでした。服務期間を既定の年限として設定したのは明治23年8月の屯田兵条例改正（勅令第181号）からでした。

この条例の第4条では「屯田兵ノ服務期限ハ二十箇年ニシテ現役三箇年予備役四箇年後備役十三箇年トス」と定められています。

3年間の「現役」では、扶助米や塩菜料のほか、農機具や農業用の種子、軍服などが支給され、開墾に専念することが奨励される期間でした。

その後の4年間の「予備役」では、扶助米や塩菜料は支給されず、農耕に励むことが奨励される期間です。この期間になると生活が苦しくなり、離村する人も増えました。

「予備役」が終わると、13年間の「後備役」となり、兵員は中隊に属さない兵隊となります。屯田兵の人数の正確な記録は残されていませんが、屯田兵制度終了後の明治45年（1912年）には165戸まで減少しています。

・兵村の開墾と農作業

太田兵村の開墾は原生林との戦いでした。直径6尺（約180㎝）もの大木を切り倒すには、大人1人でも難しいため、班での共同作業となりました。また、専門の業者に依頼することもあったようです。

入植した明治23年は専ら開墾に従事し、翌年に官給の種子や郷里から持参した種子を蒔き、栗や豆類など17種類を作付けしました。その傍らで養蚕や稲作も手掛けましたが、こちらは思うような成果があがりませんでした。

元々士族であった太田の屯田兵たちは、農作業の経験がなく、その指導を行う幹部たちも農業の知識が疎かったため、大変な困難であったようです。

また、予備役で無給となってからは、馬鈴薯・そば・あわなどを生産し、主食としていました。

このように太田兵村や他の太平洋沿岸（和田・輪西）の兵村は、冷夏や曇天の日が多かったため作物が育たず、畑作に関してはあまり恵まれませんでした。

・屯田兵のうた

太田兵村で残された歌に、「屯田兵のうた（屯田数え歌）」があります。このうたは5番道路に入植した大光寺家の娘の友達であった、森たよ氏が聞き覚え、太田村開村65周年祝賀会で披露した際に記録されました。歌詞は、屯田兵の暮らしや制度について触れられ、太田兵村での生活の大変さがよく伝わってきます。

一、ひとつとせ　ひとつ身のため　国のため　政府に義務をつくさんと　この屯田兵
二、ふたつとせ　ふたついくさのあるときは　大和魂忘るなよ　この屯田兵
三、みっつとせ　皆さんたくさん附籍あり　お米のたりないのは困ります　この屯田兵
四、よっつとせ　よくもそろえた屋づくりを　四百四十戸みな同じ　この屯田兵
五、いつつとせ　五日渡りの塩菜料　いつでも十日か十五日　この屯田兵
六、むっつとせ　むりなことだよ軍人に　チラカラベツから角曳けと　この屯田兵
七、ななつとせ　なんでもかんでも公役と　今日も公役明日も又　この屯田兵
八、やっつとせ　やめておくれよ公役を　開墾しなけりゃ法が立たぬ　この屯田兵
九、ここのつとせ　ここで目的立てなけりゃ　なんと政府に申しわけ　この屯田兵
十、とおとせ　とてもかなわぬ積米を　三割引かれて身のつまり　この屯田兵

四番は屯田兵が440戸入植したこと、五番は現役中に支給される塩菜料、六番は開墾の厳しさ、七・八番は公役負担の厳しさ、十番は支給の扶助米が入植2年目以降3割を積立てる大変さを示しています。

・行軍

屯田兵の3年間の現役期間中には練兵の一環として行軍（軍隊が隊列を組んで長距離を移動すること）がたびたび実施されました。

第3中隊（南太田村）に所属した屯田兵の屯田兵手帖の記載によると、少なくとも3回の行軍が実施されたことがわかっています。

1回目は、明治23年11月に川上郡標茶へ1泊の行軍、2回目は明治25年3月に春季演習として根室地方へ8泊の行軍、3回目は明治25年12月に秋季演習として釧路郡釧路へ2泊の行軍が行われています。

特に2回目の根室への行軍は詳細に記録が残され、3泊4日の行程（霧多布、落石、花咲で宿泊）で向かったことや2日間の演習を根室市街で行い、同じ道を通って帰村したことがわかっています。

また、帰着した兵士には太田村市街地から提供された酒・馬肉が分配されたほか、中隊から3日間の休日が申し渡されました。

・練兵と公役

屯田兵として入隊して90日間は、屯田兵軍事教育規則により、毎日練兵場に出て基本動作の訓練を受けることとなっていました。この期間の兵隊は「生兵」と呼ばれました。

生兵の期間が過ぎると、月に6回練兵が行われることとなりますが、天候や農作業の事業により、月々の実施回数は3回～8回と異なっていました。練兵は中隊規模の行進・敬礼といった一般的軍事訓練や、射撃訓練などの専門的軍事訓練が行われました。

また、練兵の合間には衛兵勤務を分担で行うほか、中隊本部の指示にしたがって各種公役を負担することとなりました。公役の内容は、本部への毛布の運搬や事業場の排水溝の建設、中隊共有の墓地掃除など多岐にわたりました。

この公役は一家の働き手を駆使することとなったため、太田村に残された「屯田兵のうた」にもあるように、大変な苦労であったことが偲ばれます。

・太田屯田兵と日清戦争

明治27年（1894年）、甲午農民戦争をきっかけとして、日本と清の戦争がはじまりました。これにより、道内各地に点在する屯田兵の演習は強化され、出征に備えて各大隊本部に軍事教育の徹底と屯田兵の覚悟を促しました。

年が明けた明治28年3月には、屯田兵の動員命令が下され、急遽臨時第七師団が設けられました。太田屯田兵は同月20日に村を出発し、厚岸に3日間宿泊しました。そののち、根室和田屯田兵を乗せた土佐丸に乗船し、青森へと向かいました。

青森で滞在後、特別列車に乗って東京へと向かい、厳しい訓練を行いました。

こうして、訓練を詰んだ太田屯田兵でしたが、この東京滞在中に下関において講和条約が結ばれたため、戦場へ赴くことはなく、5月25日に横浜から土佐丸へと乗り、厚岸に向かいました。厚岸の到着した翌日に、屯田兵たちは行進して太田村へと戻りました。

・太田屯田兵と日露戦争

明治37年（1904年）2月、満州をめぐる利権争いから勃発した日露戦争では、第七師団管轄として第三軍（乃木希典大将）に編入され、太田村からは184名（将校4名・下士兵卒180名）が出征しました。また兵士を送り出した厚岸では戦争の成り行きが注目され、勝利の報告があるたびに提灯行列や旗

行列が市街を練り歩きました。

太田村の屯田兵は203高地の要塞攻防戦を代表とする激戦で、一連の旅順包囲戦で亡くなった人は37名、負傷者も20名を超えました。太田村では残された遺族に対し、救護会、尚武会等を組織し、この救護にあたりました。

日清戦争では、ついに出征することはありませんでしたが、日露戦争では戦地に赴きました。「屯田兵」として出征した唯一の戦争であり、太田村はこれにより人口が大幅に減少し、村の存立が危ぶまれるほどになりました。

・屯田兵制度の廃止

明治8年から続いてきた屯田兵も、明治37年4月には最後に入植した士別・剣淵の屯田兵村が後備役となり、現役兵が皆無となりました。これにより9月には屯田兵条例が廃止となり、この制度は幕を閉じます。この廃止となった理由は、上原轍三郎氏によると「本道拓殖進歩ノ結果」といわれています。その内実として、屯田兵村は中隊長を村長的な立場で半独立の町村のようになっていましたが、明治32年に北海道の1級・2級町村制が施行されたことにより、行政町村の管轄下に入りました。こういった地方自治制度の発達により、「屯田兵」という制度自体が時代の流れに合わなくなったことが主な理由であると考えられています。

また、制度廃止後の屯田兵下士官や兵卒だった人たちは、服務の残期間を後備役とすることや、事変や戦争があった場合の召集、平時の簡閲点呼や演習が定められました。

・まとめにかえて

本展示では、屯田兵制度の成り立ちやその内容、そして太田屯田兵村でのようすなどをパネル・資料によって振り返ってきました。

明治8年から明治32年の25年間に渡って北海道内に設置された37の屯田兵村はそれぞれ異なった特色をもっていました。

太田屯田兵村は、他の兵村と比べてどのような特徴があったのでしょうか。特徴は以下の3点に集約されます。

1　誘致により設置された兵村
2　兵隊でない人名が名付けられた唯一の兵村
3「最後の士族兵村」

太田屯田兵村は、和田兵村や輪西兵村と同じく、開墾率や農業の不振から、よく屯田兵村の失敗例として語られています。しかし上記の3つの特徴は、他に類をみないことから、後の世に語り継ぐべき、歴史的に重要な兵村であったと位置づけることができます。

○おまけ～町内における屯田兵の痕跡～

・太田屯田の桑並木（厚岸町指定天然記念物）

太田屯田の桑並木は、太田5の通りの牧草地の境界付近約150mにわたって植えられている高さ約8m、幹周60㎝くらいのヤマグワの並木です。

屯田兵として入植し、3年間の現役を終えた桃井新さん（福井県出身）が、生活を営むために自生していたヤマグワの葉をえさにして蚕を飼い、まゆから絹糸を作る養蚕を始めました。

一時は1,200本以上もの桑を植えていた家が20軒以上ありましたが、開墾などの影響により、霧が発生する日が多くなり、日照不足で育たなくなりました。そして次第に養蚕から手を引く人が増えて、不要となった木は伐採されてしまいました。

その中で今日まで残っているこの並木は、非常に貴重で、屯田兵たちの苦労と開拓魂を伝える重要な資料として、昭和42年（1967年）10月1日に厚岸町の天然記念物に指定されました。

・太田屯田兵遺品（厚岸町指定有形文化財）

太田屯田兵遺品は、入植した屯田兵に政府から支給された軍服や家具、開拓に必要な道具などの官給品および郷里から持ち込んだ家宝や生活道具などの総称です。

移住の際の荷物には、家宝の刀や鎧など当時としてはかなり高価なものもあったようですが、苦しい生活を知る上で貴重な資料を保存していこうと昭和35年（1960年）10月1日、厚岸町の有形文化財に指定されました。

太田屯田開拓記念館及び太田屯田開拓記念館収蔵庫には、屯田兵の苦労と開拓者魂が込められた約1,300品の遺品が展示・収蔵されています。



図2　太田屯田の桑並木



図3　太田屯田兵遺品

・太田屯田の赤松（厚岸町指定天然記念物）

太田屯田の赤松は、第3中隊長であった岩淵繁隆が、寒さの厳しいこの地方で開墾や兵役を行う屯田兵たちの心を少しでも慰めようと、郷里の青森県から赤松の種を取り寄せ、苗にして当時の太田村各地に植えたものです。

赤松は、現在報国寺の境内に3本みられるほか、学校や個人地を含め、太田地区各所に植わっているものを合わせて22本が確認されています。

屯田兵の心の支えとして大きな役割を果たしたこれらの赤松は、寒さの厳しい道東地方では非常に珍しいものです。また、太田地区開拓の歴史を知る上で大変貴重であるため、昭和42年（1967年）10月1日に厚岸町の天然記念物に指定されました。



図4　太田屯田の赤松

・太田駅逓跡

入植当時、最も利便を与えてくれた駅逓は、交通の要所要所に設けられ、官馬を飼養して旅人に飼養させ、宿泊もできる仕組みとなっていました。太田駅逓跡は、明治24年（1891年）に設置された官設の施設です。

駅逓は、当時としては地域の中心的な施設でした。駅逓の取扱人は月々手当が支給され、かつ官吏に準じる待遇を受けたようです。また、貸与される山林、畑、牧場、駅馬の管理者としての恩恵もあったようです。



図5　太田駅逓跡

・太田西野家行のう帳（厚岸町指定有形文化財）

山形県から屯田兵として一家で太田兵村へ入植した西野嘉太郎の弟である要三郎が、皇紀2600年を記念して昭和15年（1940年）に記した回想録です。

「行嚢（こうのう）」とは郵便物を入れる袋を指しますが、太田兵村での思い出を詰め込むように記したのでこの名が付いたといわれています。

内容は絵日記風となっていて、嘉太郎が屯田兵に応募して、山形県を出発するときの様子や太田兵村についてからの軍務など、太田兵村での様々な内容が記されています。入植当時の様子を伝える数少ない資料として昭和42年（1967年）に厚岸町有形文化財に指定されました。

平成12年（2000年）には、釧路公立大学（当時）の高嶋弘志氏により翻刻及び解説された書籍が刊行されています。

・太田屯田兵屋（北海道指定有形文化財）

太田兵村の兵屋は、明治22年（1889年）に標茶集治監の囚人によって492戸建設されました。建坪17.5坪の平屋造りで、中は6畳、4.5畳の和室と8畳大の板の間、屋根は柾葺き、壁は板張りという質素なものでした。

また兵屋の特徴として「裏返し型」という向かい合う建物の構造が、道路を挟んで対称になる建築方法で建てられています。

現在残っている兵屋は、兵屋番号119番で、屯田兵制度廃止後、住居として使用されていたものを昭和46年（1971年）に復元し、当時の所有者であった松本英男氏から町に寄贈されたものです。



図6　太田西野家行のう帳



図7　太田屯田兵屋

付　編　2

厚岸町考古学関連文献目録（～2025年）

次ページ以降は、厚岸町の考古学関連の文献を時系列順に示したものです。当町の考古学にご興味のある方は参考にしてみてください。

なお、当目録の作成にあたっては、石川朗氏（元釧路市埋蔵文化財調査センター）、澤田恭平氏（釧路市立博物館）に多大なるご助力をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

年	著者	題目	出典
1877	坪井正五郎	本邦石器時代の遺物遺蹟は何者の手に成たか	東京人類学雑誌 第３巻第31号
1890	坪井正五郎	北海道石器時代の遺跡に関する小金井良精氏の説を読む	東京人類学雑誌 第５巻第49号
1924	河野常吉	厚岸町の史跡	北海道史跡名勝天然記念物調査報告
1926	清野謙次	北海道貝塚發掘略記	人類学雑誌 第41巻第９号
1926	大谷乾一郎	史跡 先住民族の遺跡	厚岸町文化財
1928	清野謙次	北海道北東部に於ける人類学的探究紀行（厚岸附近の探求）	民族 第３巻第１号
1962	清野謙次	日本貝塚の研究	
1962	桑原護	厚岸郡厚岸町オカレンボーシ出土の石刃鏃	釧路市立郷土博物館館報 No.123
1962	岡田宏明・岡田淳子	厚岸町筑紫恋のチャシと貝塚	釧路博物館報 No.117
1965	大場利夫・澤四郎	北海道厚岸町下田ノ沢遺跡調査略報	釧路の古代文化 第８集
1967	西幸隆	厚岸郡厚岸町床潭貝塚出土の骨角器	釧路市立博物館館報 No.183～185
1967	西幸隆・永田等	厚岸町太田十二号遺跡	
1969	西幸隆	佐藤直太朗寄贈資料目録	
1970	西幸隆	釧路地方のオホーツク式土器について	釧路市立博物館報No.207
1970	西幸隆	厚岸町宮園遺跡の調査	北海道考古学 第６輯
1970	西幸隆	厚岸町末広遺跡について	釧路市立博物館館報 No.207
1972	厚岸町教育委員会編	厚岸町厚岸湖周辺の遺跡分布調査報告	
1972	澤四郎	北海道の土器	世界陶磁大系第１巻 日本原始
1972	澤四郎	図版解説216 縄文 深鉢 下田ノ沢Ⅱ式	世界陶磁大系第１巻 日本原始
1972	澤四郎ほか	北海道厚岸町下田ノ沢遺跡	
1973	厚岸町教育委員会編	遺跡分布調査報告-海岸線を中心として-	
1974	澤四郎	第１編第４章 縄文文化から続縄文文化へ	新釧路市史第１編第４章
1975	澤四郎	下田ノ沢遺蹟	釧路市立郷土博物館館報
1975	厚岸町立教育研究所編	厚岸町文化財分布図解説書	
1977	大沼忠春	６.続縄文期	季刊北海道史研究12
1977	大沼忠春	６.続縄文期	北海道考古学講座
1979	藤本強	２ 北海道の西・東、続縄文の西・東	北辺の遺跡
1977	宇田川洋	下田ノ沢式土器の成立	北海道の考古学２
1980	西幸隆	門静貝塚	釧路市立博物館館報 No.256
1980	西幸隆	苫多48号遺跡	釧路市立郷土博物館館報No.265
1980	岡田宏明・岡田淳子	筑紫恋チャシとカムイエカシチャシ	日本城郭大系第１巻月報
1980	宇田川洋・澤四郎・豊原熙司・福士廣志・涌坂周一	厚岸町所在のチャシの調査	北海道チャシ学会会報 No.6
1981	西幸隆・松田猛編	北海道厚岸町苫多四十八号遺跡	
1981	澤四郎・西幸隆・松田猛	大黒島の遺跡	大黒島およびその周辺の科学調査報告書
1981	宇田川洋編	第１編チャシ編	河野常吉ノート考古篇１
1981	宇田川洋編	第３編貝塚編	河野常吉ノート考古篇１
1982	澤四郎	主要遺跡・図版解説・下田ノ沢遺跡 119深鉢・120深鉢・132深鉢・133深鉢	縄文土器大成第５巻 続縄文
1982	澤四郎	釧路地方の土器	縄文文化の研究第６巻 ２続縄文文化
1982	宇田川洋	道東の続縄文土器	縄文土器大成第５巻 続縄文
1982	木村英明	２ 続縄文文化 骨角器	縄文土器の研究第６巻
1983	宇田川洋編	第２編 遺物編 2-35骨角器類・2-26貝殻器 第３編 遺物編 3-4貝塚の人骨・厚岸町の遺物	河野常吉ノート考古篇２
1984	大沼幸雄	れきしあれこれ 先史時代遺跡の町厚岸 その一	朱化石（厚岸文庫１）
1984	澤四郎・西幸隆・松田猛	道東海岸線の遺跡分布	道東海岸線総合調査報告書
1984	加藤春雄・松田猛・西幸隆	厚岸郡厚岸町サッテベツ付近の遺跡調査	釧路市立博物館館報告 No.288
1985	西幸隆	史跡国泰寺跡-国泰寺の改築経過と位置及び規模について-	釧路市立郷土博物館館報 No.295
1985	大沼幸雄	れきしあれこれ その二	朱化石（厚岸文庫２）
1985	西幸隆・松田猛編	史跡国泰寺跡	
1988	宇田川洋	８.鉄器文化の展開 道東部の下田ノ沢文化	アイヌ文化成立史
1988	福田友之	城郭解説 チャチャカムイのチャシ	日本城郭大系１ 北海道・沖縄

年	著者	題目	出典
1989	大沼忠春	続縄文様式	考古資料大観４ 後期・晩期・続縄文
1990	宇田川洋編	北海道におけるチャシ遺跡一覧表	北海道チャシ学会研究報告５
1991	百々幸雄・木田雅彦・石田肇・松村博文	北海道厚岸町下田ノ沢遺跡出土の擦文時代人骨	人類学雑誌 第99巻第４号
1991	武永真・小林吉男・西幸隆	厚岸郡厚岸町別寒辺牛川流域及び糸魚沢地区の遺跡踏査	釧路市立郷土博物館館報 No.328
1992	加藤邦雄	４ 伝統文化と新来の文物	新版 古代の日本９ 東北・北海道
1997	熊木俊朗	宇津内式土器の編年-続縄文における文様割りつけ原理と文様単位(1)-	東京大学考古学研究室研究紀要第15号
1997	熊﨑農夫博・三野紀雄	厚岸町における丸木舟について	北海道開拓記念館研究紀要 第25号
1999	厚岸町教育委員会編	史跡国泰寺跡Ⅱ－平成10年度発掘調査概要報告－	
2000	瀬川拓郎	旭川市博物館所蔵古人骨資料の来歴	旭川市博物館研究報告第６号
2000	熊木俊朗	下田ノ沢式土器の再検討-続縄文時代前半期の北海道東部における土器型式の動態-	物質文化69
2000	厚岸町教育委員会編	史跡国泰寺跡Ⅲ－平成11年度発掘調査概要報告－	
2001	厚岸町教育委員会編	史跡国泰寺跡Ⅳ－平成12年度発掘調査概要報告－	
2004	高山博・櫻井準也・古田幹・朽木量・加藤春雄・熊崎農夫博	厚岸町内貝塚遺跡の再確認調査-八十年の時を越えて-Ⅰ清野博士と釧路・厚岸の貝塚遺跡-	釧路市立博物館館報 No.385
2007	福田正宏	Ⅰ-3 続縄文期における土器型式の変容と接触の構図	極東ロシアの先史文化と北海道紀元前１千年紀の考古学
2009	高山博・櫻井準也・安藤広道・朽木量・加藤春雄・熊崎農夫博	厚岸町内貝塚遺跡の調査一、厚岸別寒辺牛下流の貝塚遺跡	釧路市立博物館館報 No.403
2009	高山博	厚岸町内貝塚遺跡の調査二、尾幌貝塚出土人骨、04～09（概報）	釧路市立博物館館報 No.409
2012	西幸隆	厚岸の考古学	新厚岸町史通史編 第１巻
2015	百々幸雄・木田雅彦・石田肇・松村博文	第２章５ 擦文時代人骨 下田ノ沢遺跡	アイヌと縄文人の骨学的研究
2021	小田島賢	厚岸町埋蔵文化財整理報告(1)-清野謙次の調査と厚岸町オカレンボウシ貝塚第２次調査の土器群について-	日本若手科学研究会 会誌第１号
2021	小田島賢・澤田恭平	道東海岸線の遺跡分布調査についての経過報告～釧路町尻羽岬周辺の踏査報告及び厚岸町暁善寺採集資料紹介	釧路市立博物館紀要 第40号
2025	大江克己・鈴木建治・岩波連・小田島賢	アイヌ文化に係る出土舟の科学分析-苫小牧及び厚岸の出土例を中心として	日本文化財科学会第42回大会

海事記念館･郷土館･太田屯田開拓記念館活動報告

令和6年度（2024年度）

発　行　日　令和8年（2026年）3月31日
編集・発行　厚岸町海事記念館
〒088－1151
北海道厚岸郡厚岸町真栄3丁目4番地
電 話　0153－52－4040
FAX　0153－52－4040